

2002



# 踊りに行くぜ!! vol.3

JCDN 全国パフォーマンススペース間のダンス巡回プロジェクト

## 報告書



【主催】イムズ / STスポット横浜 /  
「踊りに行くぜ!!」沖縄公演実行委員会 /  
「踊りに行くぜ!!」仙台公演実行委員会 /  
「踊りに行くぜ!!」福岡実行委員会 / コンカリーニョ /  
セッションハウス / NPO法人DANCE BOX /  
ステージオフィスばんく / 風の国芸術祭実行委員会 /  
FREE HEARTS / セツ寺共同スタジオ  
富山県民小劇場オルビス / 財団法人松山市施設管理公社 / JCDN

平成14年度芸術団体人材育成支援事業  
【協賛】アサヒビール株式会社 / トヨタ自動車株式会社

【企画・制作】NPO法人Japan Contemporary Dance Network

600-8092 京都市下京区神明町241オパス四条501  
tel075-361-4685 fax075-361-6225 email:jcdn@jcdn.org  
WEBサイト <http://www.jcdn.org/> JCDNダンスリザーブ <http://dance.jcdn.org/>

## 【目次】

【企画趣旨】	・・・	P.1
【「踊りに行くぜ！！ vol.3」を終えて】		
JCDN事務局	・・・	P.2
テクニカルディレクター／照明 相川正明	・・・	P.3
【総入場者数一覧】	・・・	P.4
【各地域実施概要・主催者アンケート・観客アンケート集計結果及び感想】		
前橋 臨江閣	・・・	P.5
横浜 STスポット	・・・	P.10
福岡 イムズホール	・・・	P.14
広島 広島市安芸区民文化センター	・・・	P.18
松山 松山市総合コミュニティセンター	・・・	P.23
大阪 Art Theater dB	・・・	P.28
札幌 アトリエ インディゴ	・・・	P.33
名古屋 セツ寺共同スタジオ	・・・	P.37
富山 富山県民小劇場 オルビス	・・・	P.39
仙台 エルパーク仙台スタジオホール	・・・	P.43
東京 セッションハウス	・・・	P.48
沖縄 パレット市民劇場	・・・	P.52
【出演アーティストプロフィール・作品解説・アンケート】		
天野由起子	・・・	P.57
伊藤郁女	・・・	P.58
北村成美	・・・	P.59
CRUSTACEA	・・・	P.60
合田緑＋三好絵美＋戒田美由紀	・・・	P.61
小浜正寛(ボクデス)	・・・	P.63
近藤良平	・・・	P.64
砂連尾理＋寺田みさこ	・・・	P.65
丹波直美	・・・	P.66
丹野賢一/NUMBERING MACHINE	・・・	P.67
DAMAI・RAMEI	・・・	P.70
広島 ダンス アートプロジェクト参加者	・・・	P.71
Dance Samadhi	・・・	P.72
ダンスユニットセレノグラフィカ	・・・	P.73
千葉里佳、今野由紀、西美紀子	・・・	P.75
手塚夏子	・・・	P.77
てらにしあい、tomomi	・・・	P.78
得居 幸、戒田美由紀	・・・	P.79
星加昌紀×高橋砂織	・・・	P.80
松本大樹	・・・	P.81
松本 芽紅見	・・・	P.82
山賀ざくろ	・・・	P.83
安川晶子	・・・	P.85
山田オリエ	・・・	P.86

## 【掲載記事 評論記事】

## 企 画 趣 旨

現在日本各地で新しい振付家・ダンサー・パフォーマーが数多く生まれてきています。

JCDNでは、

- 全国の振付家／ダンサー／パフォーマーが、違う都市において公演を重ね様々な反応を得ることによって、作品及びアーティストが育っていくこと
- 全国のアーティスト間、スペース間、アーティストとスペース間の新たなコミュニケーションが生まれること
- 各地域の孤立をなくすこと
- 各地域の観客に新しいアーティストを紹介することにより、ダンスへの理解が深まり、観客自体が育っていくこと
- アーティストにとって地元以外での単独の公演やカンパニー公演が日本各地で行われるようになること

第3回目の本年は、札幌・仙台・前橋・東京・横浜・名古屋・富山・大阪・広島・松山・福岡・沖縄の12の地域で開催致します。

今回は、

1. 参加スペースの推薦
2. 開催地での選考会からの選出
3. 公募
4. 初めて開催するスペースの希望

のアーティストから出演者を決定いたしました。

全国各地域からのアーティストを紹介し、各地のパフォーマンススペース間のプロジェクトとして毎年開催していきたいと願っております。  
皆様のご支援・ご協力の程何卒よろしくお願い致します。

|

## 2002「踊りに行くぜ！！ vol.3」 3年目を終えて

JCDN 事務局 佐東範一 水野立子

早いもので第一回の「踊りに行くぜ！！」を、札幌、東京、横浜、大阪の4箇所、9組の出演者でスタートしてから今年で4年目を迎えようとしています。第3回目の昨年は、12箇所24組の出演者によるプロジェクトと成長し、着実にダンスを育む環境が整ってきたのではないかと嬉しく思います。これは到底、私共JCDNの微力な力だけでは成し得なかったわけで、開催に向けてご協力いただいた各地域のスペース・実行委員会などの主催者の皆様、よりよい作品づくりに真摯な取り組みを見せてくれた出演者の皆様、9箇所を巡回し、出演者のテクニカル面で大きな力となっていた照明家の相川正明さん、そして第一回目よりこのプロジェクトにご理解をいただき、ご協賛いただいたアサヒビール株式会社様、トヨタ自動車株式会社様、6箇所の公演に自費で駆けつけていただき出演者・主催者に暖かいコメントをいただいたJCDNアドバイザーの加藤種男さん、清水永子さん、その他関係者全ての方々がこのプロジェクトへ力強い情熱を持って取り組んでいただいた成果だと思っております。又昨年より“文化庁芸術団体人材育成支援事業”として行えたことは、「踊りに行くぜ！！」の発展に大きなステップとなりました。この場をお借りしまして、皆様に心より感謝申し上げます。

今後の為に昨年12箇所を廻って主に気づいた点を挙げてみたいと思います。

1)初めての開催地である広島、松山、仙台、沖縄では、これまでの“ダンス”という固定概念を崩し、表現する喜びや可能性を、地元出演者・ダンス関係者・観客・そして主催者がそれぞれ感じとっていただけだったが、何よりも成果といえるだろう。首都圏との大きな違いは、普段コンテンポラリーダンス公演自体があまり開催されない地域なので、多くの観客が興味を持って観に来ていただけのこと、又、実行委員会をつくり、このプロジェクトの制作に積極的に関わる体制をつくってくださったことが、大きな起因となったと思う。今後も継続して地元からの出演者を選出し、実行委員に携わってくれる方々を集っていく為には、“ダンスを取り巻く全体的な環境づくり”に取り組んでいくことの必要性を感じた。

2)昨年より前橋、福岡、松山、札幌、名古屋、富山の6箇所出演者を決定する選考会を行ったが、思っていた以上にやってよかったと感じている。ただ“選考する”という目的だけでなくダンスラボの性格も持たせ、各地の振付家・ダンサーとコミュニケーションをとることができたことや、どうしても首都圏在住のアーティストが、「踊りに行くぜ」へ参加することが多くなりがちだが、全国各地域から確実に出演者を選出することにより、首都圏以外のアーティストが、自分の居住地以外で活動する機会が増えることに繋がったこと、がその理由です。特に松山からは3組の参加となり、今後の成長が楽しみになってきた。今年からは、首都圏でも選考会を行ったほうがいいのかどうか検討したい。

3)一方、第1回目から開催している大都市 東京・横浜・大阪では、日頃より1日の演目を4 - 5組の出演者で構成されるダンスプログラムが多く開催されている為に、「踊りに行くぜ」が特に注目されるというわけではなく、又昨年のように東京、横浜で地元のアーティストは出演せず、他地域在住のアーティストだけが出演した場合、観客が少ないという非常に残念な結果に終わってしまった。今後どのように話題性をアピールし、又まだ知名度がない他地域のアーティストに興味を持って、お客様に観に来てもらえるようにすればいいのか、が課題として残った。

今年4回目の開催を前に、この報告書に書いていただいた各主催者、出演者、観客の方々の声を聞きながら、今後の「踊りに行くぜ！！」をどう発展させていけばよいか、を考えていきたいと思っています。今後とも、皆様とともに「踊りに行くぜ！！」を継続させていきたいと思っておりますので、何かご意見、アイデアがございましたらお聞かせください。何卒よろしくお願い致します。

## 踊りにいくぜ！2002を終えて！

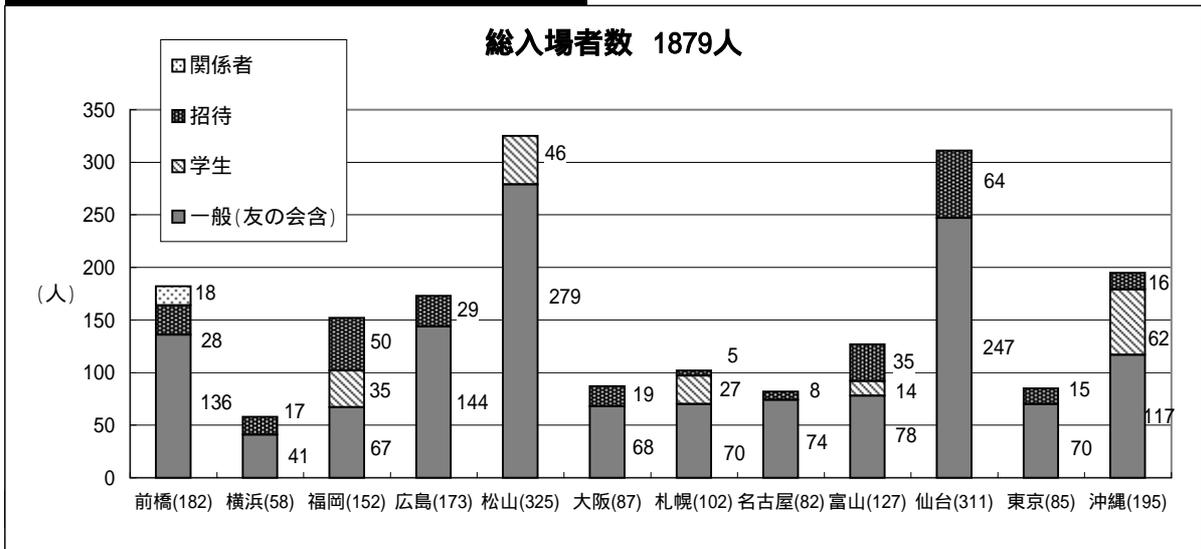
テクニカルディレクター／照明 相川正明

2001年から若いダンサーのお役に立てればと、協力するようになった。どうしてもこの年になると、同年代のダンサーや舞踏家としか接点がなくなるようになる。狭い眼しか持たなくなって、真の意味での優柔不断さがなくなるのである。しかし、いざ始まってみると、その親心のような動機も吹っ飛んでしまうぐらい若いダンサーはエネルギーを抱いている。娘や息子と同じぐらいの若いダンサーと一緒にステージをつくる。2ヶ月ぐらいの間に、全国数箇所。何回か。若い人は若い人同士という意見もある。でも若いダンサーの頭の中を覗くには不良性と狂気(精密さと大胆さ)の中を生きたおじさんのバランスが特に必要な事もあるのである。その援助もあって地方公演はもとより自主公演もした事もない彼女や彼が全国の別の空間で踊る事により、徐々に大人になっていく過程がみえるのである。又、作品自体も1回目より2回目、2回目より3回目と成長していく。そしてその過程の結果として、新しいダンサーが生まれるのである。

これが全国巡回で、2002年は12ヵ所。ごやっかいになった地方のスタッフ達とのふれあい。その関係がその都市の盛り上がり独特のものを創り出す。「踊りにいくぜ」を開催することに100%以上の力を出した人々を代表とするその都市のエネルギーの色が見えてくるのである。実際には狭い小劇場が主なので、満杯に客が入っても、赤字が生まれる状況で、助成がなければ開催できないかもしれない。また、ダンサーの全国の振り分けでも、均等にしているので、ある程度、名のあるダンサーでも席をうめる事はない。しかしこれは一つの運動体なのである。ダンスを通じて、各都市のエネルギーをもう1度、振り絞ろうとする試みなのである。主催者が50%のエネルギーで向かえば、結果はおのずと50%、いやいやそれ以下。関係者諸君！ダンサーに負けないぐらい気を引き締めよ！

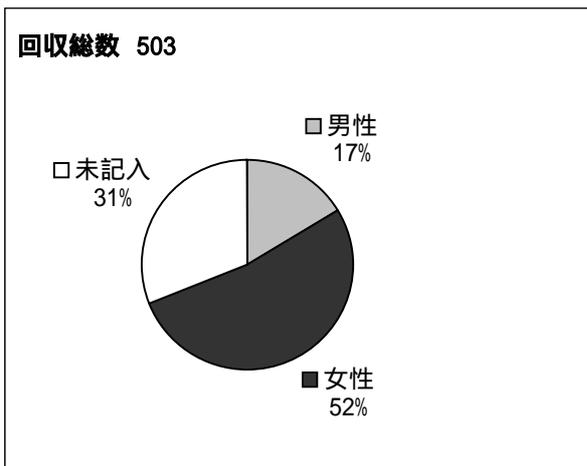
いま、ダンス界はどのプロデューサーも挙げる新しいチョットおもしろいダンサーは10組ぐらい。同じ顔である彼女や彼に集中してしまう。少しは違う形があっても？少しは違う観点を持つ人がいても？そんな違う顔も含めて一緒に創っていく過程の全国巡回プロジェクト「踊りにいくぜ！！」この地味なプロセスは今の日本のダンス界になくはならないものである。

# 会場別 総入場者数 一覧

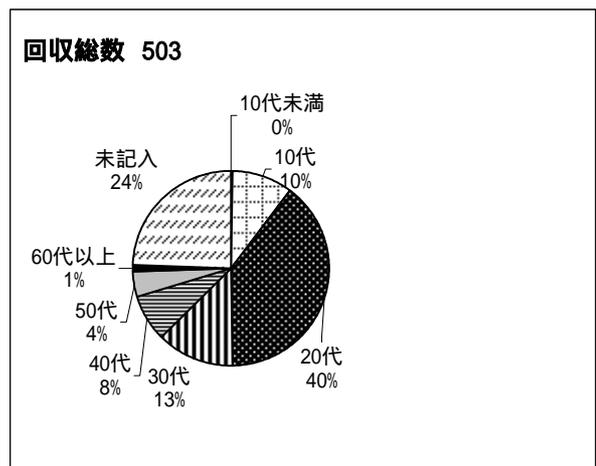


\* ( )内は各会場総入場者数

アンケート回収総数に見る男女比率(全国)



アンケート回収総数に見る年代比率(全国)



前橋

Maebashi

会場：臨江閣

### 実施概要

日時	10月4日(金);開場 18:30 開演 19:00 5日(土);開場 17:30 開演 18:00		
会場住所	群馬県前橋市大手町3-15		
チケット料金	前売 2,500円 当日 3,000円		
出演者	砂連尾 理 + 寺田 みさこ / 手塚 夏子 / 山賀 ざくろ / 山田 オリエ / 丹野 賢一 / NUMBERING MACHINE		
主催	風の国芸術祭実行委員会 前橋・高崎文化連携事業委員会 前橋市 高崎市	制作	ダンススケープス 2002 前橋芸術週間実行委員会
テクニカル ディレクター/照明	相川 正明		
関連事業	cafe”指輪ホテル” <4日・17:00 ~ 23:00, 5日・16:00 ~ 22:00,6日15:00 ~ 21:00 > dance-scapes2002 -舞景・ダンススケープス- : 10月6日(日) 開場 16:30 / 開演 17:00		



## 1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど

「意義を超えること」

行政策と事業の開催をコラボレートする場合、必ず前提として問われる"意義"。

「地域への波及効果は？」「文化的意味は？」「動員数は？」

地域において活動を始めて20年。この不況、この夢や希望までもがリストラの対象となる時代にあつて、この意義を予め問う事が年々大きくそして強くなっているような気がしてならない。

世の中のすべてのものが何らかの目的を持つことを強いられ、整然と分類され、最大多数の最大幸福を至上命令して、意義のあることに隷属されていく。

昨日より今日を、今日より明日をという本来の人間時間の営みが、効率第一の原理へとすり変わり、もっともそこから自由に遠くあるはずの舞台にまで忍び寄り、板目のある全体的で単一な色に染めあげていく……。

この意義の強制(一方向の)から微力ながら舞台を守っていくお手伝いが出来たらと思っている。そのために固定を嫌い、履歴を捨て、一体何度事務局を変え舞台を変えて来たのだろう。

「JCDN/踊りに行くぜ！！」においても、2001年度は「第16回国民文化祭・ぐんま2001 前橋芸術週間/シアターC・A・M・P」という名義で、中心市街地にある旧協和銀行を劇場に変え、2002年度は「前橋・高崎文化連携事業 風(ふう)の国芸術祭/ダンススケープス」によって、県・市重要文化財「前橋臨江閣」に3つの仮設舞台を寄生させた。

はたして今年はどこを瀬として流れつくのか。

はたして今年は意義を超え、意味を超え、言葉を超えることが可能なのか。

はたして今年は……。



## 観客アンケート集計結果

総入場者数 182  
回収総数 35

### 性別・年齢別

	10代	20代	30代	40代	50代	不明	計
男性	-	4	2	2	1	-	9
女性	2	9	2	-	-	2	15
不明	1	2	-	-	-	8	11
計	3	15	4	2	1	10	35

### 地域別

前橋市	高崎市	群馬県内	東京	神奈川
16	1	2	2	1

### 情報の取得 [ ]内詳細

チラシ	9	[どこで入手したか: リングス戸田宮店、RITZ、高崎アクタス、カフェ、]
広報マエバシ	1	
雑誌の記事	1	[プラザ]
友人・知人から	12	
出演者	4	
その他	7	[関係者、JCDN、DM、指輪マガジン]



## 内容についての感想...観客アンケートより抜粋

19歳 女性 学生 高崎市	19歳 学生
<p>日常生活の何気ないところを体を使って自由に表現しているところがすごかったです。音の隅々まで使って全てを動いている風に見せているところに感激しました。</p>	<p>手塚夏子さんの懐中電灯のアイデアは好きだと思いました。 しかし麦汁が客にかかりそうだったのはいただけねーと思いました。</p>
20代 学生	20歳 劇団員 前橋市
<p>庭を使う際に、柱が…。ダンスは表現として、特殊な感じがしました。なんでだろう？言葉が無いので、とり方が色々で複雑に感じました。ステップの度に、引き戸がゆれるのは、楽しかったです。</p>	<p>ダンスパフォーマンスって、どーもイカレてる系になっていっちゃう気がします。綺麗で大好きなんですけど。全部、瞳がイッチャってると、ちびっと疲れます。外でのパフォーマンス、懐中電灯を使ったパフォーマンス、共に柱が邪魔で良く見えなかった…口惜しや。ギターの方はびっくり見えました。やーらかくてきれーでせくすいでした。</p>
22歳 男性 学生 前橋市	22歳 女性 前橋市
<p>第二部の二人のダンサーがすごく印象的でした。特に手塚さんの「私的解剖実験？」の動きが私には面白く感じました。またこのパフォーマンスでは観客に懐中電灯を使わせる点がいいと思いました。観客とダンサーと一緒にダンスライブを作っている感じがして楽しかったです。</p>	<p>会場が1部と2部で違ったり、Cafeもパフォーマンスがあって、ビックリしました。 &amp;建物もレトロな雰囲気、異次元空間に迷い込んだような気分でした。 楽しい夜をありがとうございます。</p>
27歳 女性 前橋市	29歳 男性 学生 東京都
<p>指輪ホテルのラグマットがとても素敵だった。あれは手作りですか。すごく欲しいと思いました。購入できますか(すみません)。</p>	<p>鈴木清順の映画を見たような鮮やかさでどのダンスも忘れ難いものだった。  観客の集中度も非常に高いものであったし、Performer側のテンションの高さも何か新鮮であった。臨江閣という場所に宿るゲニウロスキを召喚したようです。</p>
30歳 女性 会社員 前橋市	未記入
<p>開演前のCAFEからダンス・パフォーマンスまでとてもとても面白かった！山田オリエも「ユラフ」も楽しめたけれど、手塚夏子が際めつけにハートに来た。彼女のお茶&amp;ビール飛ばしを許した臨江閣も大変立派！！  臨江閣というスペースを知ったのも今回の収穫。ぜひ続編も！！</p>	<p>アーティストの力量だけで、オーディエンスをどよめかせられる時代ではなくって、(出演者も、鑑賞者もレベルが上がったので)今回は踊りを題材にしていたので、客席もオールスタンディングにして踊りながら見ても良いようにしても良かったと思う。 着席して堅苦しく見ることがアーティストのプレイをつまらなくしてしまう部分も出てくるので、客の質を良くするような会場作りのプロデュースの考え方を工夫していく必要が出てきたと思う。</p>



丹野 賢一/NUMBERING MACHINE



日本庭園



砂連尾 理 + 寺田 みさこ、山賀ざくろ、山田オリエ会場



砂連尾 理 + 寺田 みさこ



手塚 夏子



手塚 夏子会場



指輪カフェ



指輪ホテルメンバー

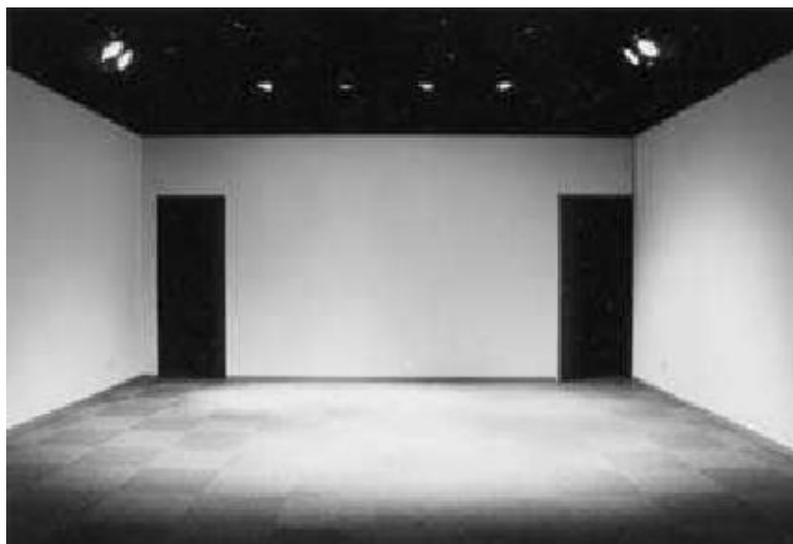
# 横浜

# Yokohama

# 会場:STスポット

## 実施概要

日時	10月13日(土)19:30開演 10月14日(日)15:30開演		
会場住所	横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビルB1 TEL:045-325-0411 URL: <a href="http://www.stspot.org">http://www.stspot.org</a>		
チケット料金	前売:2300円 当日:2500円(定員60名・全席自由) セッションハウスとの共通チケット4000円(前売のみ)		
出演者	北村 成美 / ダンスユニットセレノグラフィカ / 得居 幸、戒田 美由紀 / 松本 芽紅見		
主催	STスポット横浜	舞台監督	川上 大二郎
共催	横浜市	テクニカル ディレクター/照明	相川 正明
助成	財団法人セゾン文化財団	音響	田村 彩
制作	STスポット・ダンスシリーズ企画室 岡崎 松恵、手塚 夏子、吉福 敦子		



## 主催者アンケート

岡崎 松恵 (STスポット ダンスシリーズ・プロデューサー)

### 1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど

今回STスポットでは、手塚夏子・小浜正寛(ボクデス)2名のアーティスト推薦と、横浜公演の制作を行った。

地元では他地域のアーティストの作品をみる機会も多く、当公演では参加アーティストの地域を関西以西(大阪・京都・松山)に限定することで他のショーケースとの差別化を図ろうとした。同じ週に開催の京都在住の山下残新作公演とのセット券を設け、<関西特集企画>として独自のチラシを作成しPRを行うほか、当ダンスシリーズの「ラボセレクション」との割引など観客誘因を図ったが、結果的には大変厳しいものとなった。

これは新しい観客との出会いを期待するアーティストにとって残念なことであり、制作サイドとして反省すべき点である。多くのダンス公演とバッティングした開催時期の問題だけでなく、横浜や東京に於いて目新しさやお得感を失った感のあるショーケース公演の制作課題でもある。

上演された4作品のうち3つのグループがSTスポット初登場だったが、劇場空間を意識した振付とそれぞれの真摯な取組みは観客にも十分伝わるものだったと思う。

### 2) 今後の課題点、改善した方が良いところ、展望など

横浜及び東京では年間を通じてダンス公演が急速に増え、新しい才能に着目するダンス企画も多く、出演アーティストと観客が重複し競い合っている状況にある。地理的には2つの都市だが、シーンとしては1つの地域と捉える必要があるだろう。

そこで来年はSTスポットで予選会～セッションハウスで本公演、あるいは別会場における共同開催など2つの劇場の連携による1箇所開催を提案したい。全国巡回公演システムは、個々の力を持ち寄ってコンテンポラリーダンス全体の層を厚くしていくことが重要であり、ダンス公演が過密な地域には新たな取組みも必要だと思っている。



## 観客アンケート集計結果

総入場者数 58  
回収総数 31

### 性別・年齢別

	10代	20代	30代	40代	50代	不明	計
男性	-	1	3	1	-	4	9
女性	-	9	5	-	-	6	16
不明	-	-	-	-	-	4	6
計	-	10	8	1	-	14	31

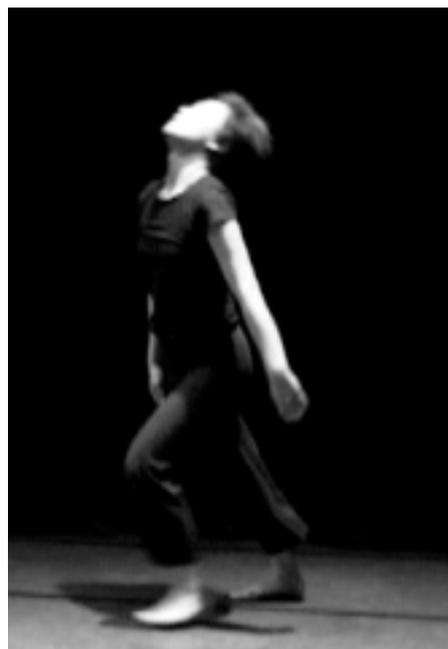
### 地域別

神奈川	東京	京都	静岡	千葉	群馬
7	4	3	2	1	1

### 情報の取得 [ ]内詳細

チラシ	15
DM	3
人に聞いて	3
出演者・スタッフより	8
WEB	4
その他	2

[どこで入手したか:新横浜ラポール、京都東山青少年活動センター、京都芸術センター、前橋、アートピアホール8F、名古屋LOFT、札幌コンカリーニョ、折込(ダンスセレクション2002公演、丹野賢一公演)]



## 内容についての感想...観客アンケートより抜粋

21歳 女性 フリーター 千葉県	21歳 女性 学生 相模原市
<p>特にいいなと思ったのが、セレノグラフィカと北村成美さんでした。「樹下の双魚」は家の2匹の飼い猫とかさなって、すごくほほえましく、かわいらしい作品だと思いました。</p> <p>また、北村さんの「ラベンダー」は、すごく力強い感じで、ラベンダーがこんなにたくましいのか！？と思えば思うほど笑いがこみ上げてきて、明るい気持ちになりました。</p> <p>最後の対談の時間で、出演者の方々の頭の中に少しふれて、意見が聞けたのも良かったと思います。</p>	<p>セレノグラフィカが面白くて気に入りました。あと、北村さんを見ていたら、自分の身体に対する愛情が芽生えてきました。太ももがよかったです。</p> <p>私はダンスを観に来る時「ダンス」を観ます。でも「ダンスって何だろう」とけむにつつまれることばかりです。それが好きなんです。わけがわからなくなるところが、ダンスを続けてください。</p>
男生 学生	24歳 女性 愛媛県松山市
<p>松本さん 前半の力みの無い動きと照明がよく合っていて良かった。後半の動きは良かったが、つぶやく時の、たしか「さびしい」や「思いで」のような直接的な表現なしにチャレンジしていただきたい。セレノグラフィカさん お二人のかけあいが面白かった。もっとばかばかしくてもOKなのかと思いました。</p> <p>得居幸さんと戒田さん なぜか夏休みを思い出した。小さな冒険のような一日、とても懐かしく拝見した。お二人の表情、動きが生き生きしていた。この世界観をもっと広げていただきたい。北村さん 聖と俗、品と下品、これが絶妙な具合でした。ガンつけは迫力があつた。すばらしかった。</p>	<p>すごくレベルが高い作品たちでした。いつも思うのですが、今回みたいに、単純に振付けて踊ってというスタイルではない作品を観ると、踊るって何だろう？って思ってしまう。ダンサーの性格やその時のリアルな感情をさらけ出すのが果たしていいのかどうか...。出した者勝ちみたいなのはあると思いますが、逆に引いてしまう部分もあります。ほんと、奥が深いです。</p> <p>北村さんのダンスはすごく魅力的でした。「おじぎダンス」の的になったのですが、私は目があった時「負けるものか」と思い、視線をそらさない様にしましたが、どうだったでしょうか？</p>
24歳 女性 フリー 大阪市	23歳 女性 学生 前橋市
<p>「桃色の空」の方々のダンスは、何だかわからないパワーを感じて観いてしまいました。それは若さなのだろうか？初めて観させていただいたのですが、ブルブルっときました。</p>	<p>ダンスユニット セレノグラフィカのダンス良かったです。座ったまんまで立ってないのに気付いた時にドキッとしました。前橋のときは雰囲気すごく違って新鮮でした。</p>
女性 編集者 東京都三鷹市	30歳 男性 劇団員 横浜市
<p>関西と関東では、「ダンス」って何か問うものが違うの？というのを感じて面白かったです。ダンスの中にボケとっこみがあるというか、より日常的なところを素直に出しているというか。ぜひ大阪でも見てみたいです。</p>	<p>舞台と客席の関係性が面白い。作品に合わせて舞台を作っているのか、それとも間口、キャパはあらかじめ限定されていてそれに合わせて出演者が作品を考えるのか？</p>
31歳 女性	38歳 女性 販売員 東京都杉並区
<p>セレノグラフィカさんの作品はこの空間にあった作品でとても楽しめた。久々に頭よりも先に感情で感じて楽しめる作品でした。靴下と衣装かわいい。</p> <p>松本さんの作品は言葉から動きへ移行していく場面が良かったです。</p> <p>得居&amp;戒田さんは他の3組に比べてフレッシュなグループですね。空間アプローチ少し弱い気がしました。</p> <p>北村さんの作品はちょっとしたショーを見る感じ。スカート綺麗でした。ラストは泣けます。見てて辛い気持ちになる。生きてって...て感じの作品でした。</p>	<p>松本さん、身体の動きをどこまでも追求しているのが伝わってきました。</p> <p>セレノさん、面白かったですけどシリアスなものも見てみたいです。</p> <p>得居さんの力のある動きと眼力に見せられました。リフトからの展開も見事、音も良かったです。</p> <p>北村さん、踊りも迫力あって良かったです。光と影、頭上からざわめきが聞こえてくる演出が面白かったです。</p>

# 福岡

# Fukuoka

# 会場: イムズ

## 実施概要

日時	10月22日(火) 開場 / 18:30 開演 / 19:00		
会場住所	福岡市中央区天神1-7-11 イムズ9F TEL092-733-2002 URL <a href="http://www.ims.co.jp">http://www.ims.co.jp</a>		
チケット料金	前 売 / 2500円 当日 / 3000円 学生券 / 2000円(前売・予約のみ)		
出演者	合田 緑 + 三好 絵美 + 戒田 美由紀 / 北村 成美 / Dance Samadhi / 松本 大樹 / 山田 オリエ		
主催 / 制作	2002「踊りに行くぜ!!」福岡実行委員会 イムズ	テクニカル ディレクター /照明	相川 正明
		照明	(株)SLI
		音響	(株)STAFF



## 主催者アンケート

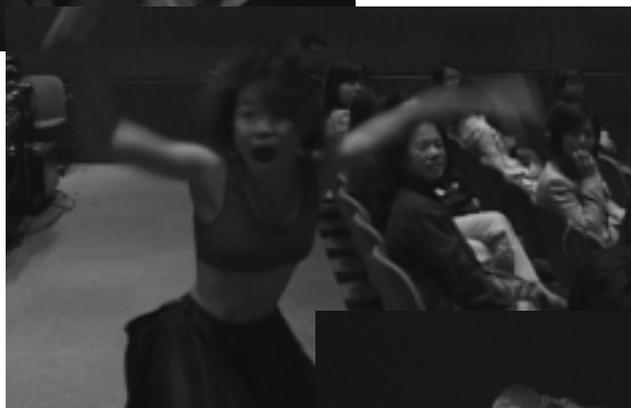
古場 治 (株式会社 イムズ マーケットプロモーション部)

### 1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど

福岡での開催は2度目でしたが、「踊りに行くぜ！！」の他様々な舞台芸術の在り方を紹介していくことで、とても緩やかではありますが、オーディエンスは着実に育っているのではないのでしょうか。眼からうるこをはがしてくれる知的&美的刺激に飢えた福岡で、「踊り」がブレイクする可能性は大です。その意味で「踊りに行くぜ！！」がもつ存在意義は大きいと思いますし、あとは、それをできるだけ幅広い裾野に向けて知らしめていくためのテクニックの問題、ちょっとしたエッセンスなのだと感じています。

### 2) 今後の課題点、改善した方がよいところ、展望など

コンテンポラリーダンス(踊り)が、とても可能性と刺激に満ちたアートだということを、筋道立てて伝えていくスポークスマン、目利き、伝道師的な役割が福岡には足りないと感じます。それは、イムズのような“場所を持つ者”でなく、制作者(プロデューサー)であり、評論家、あるいは共通認識を持つ緩やかな応援組織なのかもしれませんが、そのあたりを意識しながら、前向きな展開を摸索していきます。



## 観客アンケート集計結果

総入場者数 152  
回収総数 42

### 性別・年齢別

	10代	20代	30代	40代	50代	不明	計
男性	-	2	-	-	-	2	4
女性	2	25	5	1	1	4	38
計	2	27	5	1	1	6	42

### 地域別

福岡市	市外県内	大分	熊本	東京
22	11	1	1	1

### 情報の取得 [ ]内詳細

イムズに来て	1
イムズメール	3
イムズWEBサイト	2
九州ウォーカー	1
シティ情報ふくおか	7
雑誌	2
その他	24

[CATA、チラシ、折込、DM、出演者、友人、オーディション、ダンス教室、スポーツクラブ]



## 内容についての感想...観客アンケートより抜粋

<p>20才 女性 学生 福岡市</p> <p>私は日頃、ダンスとは全く関わりの無い生活ですが、デザインの勉強をしていて、アート性のつながりからいって、とても興味が持てました。感動しました。また見に行きます！！</p>	<p>23歳 女性 学生 福岡県</p> <p>多種多様な内容、踊りにとても興味が持てました。最後の質問コーナーみたいなやつで踊り手さんの素顔がみれたり、作品の内容など詳しく聞けて良かったです。</p>
<p>23歳 女性 学生 粕屋郡</p> <p>学生チケットは開場30分前くらいから販売してほしかったです。一番に並んでいたのに意味がなかったの。</p>	<p>22歳 女性 学生 宗像市</p> <p>学生券をぴあなどで購入出来るようにしてほしい。</p>
<p>24歳 女性 会社員 福岡市</p> <p>印象に残ったのは、松本大樹さんと北村成美さんです。松本さんのダンスは、洗練されたクールさがあって、見ていて爽快感がありました。詩も、詩の朗読も良かった。全体的に飽きさせない構成だと思いました。</p> <p>北村成美さんのダンスはすごくインパクトがありました。観客席まで降りてきたのも意外で面白かった。けれど、ただ奇抜なだけでなく、美しさもあったと思います。冒頭で、スカートをまくり上げたときはギョッとしましたが、ラストでは見なれてしまった点もやはりインパクト大。</p> <p>福岡のチームの3人も、3人のバランスがとても面白かった。ダンスをやりたくなりました。</p>	
<p>24歳 男性 フリーター 福岡市</p> <p>ひとつの場所の公演で、いろいろな地域のダンサーの作品を見ることが出来るので、とても良い企画だと思います。また、公演後のトークセッションで、作品のいきさつなど、色々とお話を聞けるのも嬉しいです。</p>	<p>25歳 女性 会社員 福岡市</p> <p>出身の異なる方々の作品が観れたのが良かった。基本的に映像を使わないと思っていたが、映像有りの作品もあるのだと新しい観点を持てたのは良い機会だった。</p> <p>「ラベンダー」は大変魅力的で、頭出しから引力が強く、眼に焼きついた。「自分の中のイメージを伝える・感じさせる」ということは、パワーがいるなと、単純に感じる。</p> <p>終演後のトークは新鮮な場でした。</p>
<p>28歳 女性 福岡市</p> <p>1人or1グループそれぞれがすごくいろんな思いを持って作品を作っているのに感動しました。私も踊りたい！！私はストリートダンスをしているんですが、もっと表現する事のすばらしさを、ストリート系のダンサーにも知って欲しいです。</p>	<p>42歳 女性 会社員 福岡市</p> <p>ダンスの前に説明があると良かったと思います。</p>

# 広島

# Hiroshima

会場:広島市安芸区民文化センター

## 実施概要

日時	10月26日(土) 開場13:30 開演14:00 / 開場17:30 開演18:00		
会場住所	広島市安芸区船越南 3丁目2-16 TEL 082-824-1330		
チケット料金	前売 2,800円 当日 3,000円		
出演者	ダンス アートプロジェクト参加者 / 砂連尾 理 + 寺田 みさこ / 松本 大樹 / 安川 晶子		
主催	FREE HEARTS	舞台監督	山本 真治
共催	(財)広島市文化財団 安芸区民文化センター	テクニカル ディレクター /照明	相川 正明
		照明	福田 哲也
助成	財団法人セゾン文化財団	音響	宮田 充則、 岡本 忠久
制作	FREE HEARTS	進行	村木 克彰、 柄澤 陽子
運営スタッフ	島村 陽子、 田辺 峰子、 三宅 ケイコ、 谷 梢、 山田 一穂		
関連事業	砂連尾 理 + 寺田 みさこワークショップ開催。 (10月27日 一般対象 / 10月28日 広島市立袋町小学校)		



## 1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど

ダンス情報が入りにくい広島において、新しいダンスの動向・パワーが伝わり、充分意義があったと思います。

しかし、いいシーンや作品があっても、一般的に分かりやすく伝える事はなかなかむずかしいなあという感想を持ちました。意義を会場サイドやスタッフに浸透させる時間と努力が必要です。今後回を重ねる事によって、広島にも新たなダンスシーンが誕生することを願っています。

## 2) 今後の課題点、改善した方が良いところ、展望など

ダンス自体の馴染みが薄い都市ということもあり、一般の観客を含め地元のダンス関係者の盛り上がり期待できなかった事は、受け入れサイドの問題だったのでしょうか？

主催者サイドには、コンテンポラリーダンスそのものを強力にアピールする運動体としての展開を期待したいと思います。受け入れサイドの意識・感性を引き上げる工夫も必要です。

コンテンポラリーダンスの社会との関わりや必要性を広島に浸透させる方法として、例えば「ベーシックなジュニア育成プログラム」や「コリオグラファーワークショップ」なども考えてみてはどうでしょうか？それから実施にあたり経費の点もご検討ください。



## 観客アンケート集計結果

総入場者数 173  
回収総数 74

### 性別・年齢別

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	計
男性	0	5	1	2	3	0	0	0	11
女性	10	16	15	11	5	1	1	2	61
不明	-	1	-	-	-	-	-	1	2
計	10	22	16	13	8	1	1	3	74

### 地域別

広島県	島根県
73	1

### 情報の取得 [ ]内詳細

チラシ	9	[ どこで入手したか:DM、区民文化センター、区民スポーツセンター]
ポスター	3	
知人・友人	57	
雑誌	1	[ to you ]
その他	10	[ 中国新聞、出演者、関係者、孫 ]



## 内容についての感想...観客アンケートより抜粋

<p>10代 女性 広島県内</p> <p>新しい世界に触れた気がしました。「ダンス」というよりも「人間の心の中」を見れました。席が近かったので、ダンサーさんの息づかいや激しい足踏みが楽しめました。</p>	<p>20代 女性 広島市</p> <p>観客の視線を全く意識しない舞台というのも、ある意味面白いなと思いました。ひとりよがりにならないという保証はないですけど…。</p> <p>今回の舞台で特に目を引いたのは、「リ・アクション」の際立ちです。音・光・人・空気…さまざまな「動き」に対する「反応」を見せていただきました。</p>
<p>20代 女性 広島市</p> <p>・広島ダンスアートプロジェクトの作品は、言葉を越えて「触れ合う」「つながる」感じがしました。「あったかい」作品でした。</p> <p>・東京の松本さんは、「中性」的な都市にさまよいこんだイメージ。</p> <p>・安川さんは、個性と「葛藤」をあのように表現する勇気が素晴らしい。</p> <p>・砂連尾さん&amp;寺田さんの作品は、足音と2人の距離感のバランスがオシャレで「フランス」のモダンアートを見ているようでした。</p>	<p>20代 女性 広島市</p> <p>出演者が間近のため、表情・呼吸・性格等、よく見えて面白い半面、2人で踊られて離れる構成だと観にくくて残念でした。コンテンポラリーは書道で例えると「前衛」のようでわかりにくいけど、わかりたいという気持ちがわきました。もう少し見る側の気持ちも考えて作って欲しいです。</p>
<p>30代 女性 広島市</p> <p>広島の人たちの踊りに純粋な気持ちがダイレクトに伝わってきて、感動しました。</p> <p>ゲストの方々は、テクニックも感性も素晴らしくて、ただ、見とれるばかりでした。生活の主の部分でなく、副の部分を中心にメッセージできることはすごいと思う。創りあげていく過程に興味を持ちました。</p>	<p>30代 女性 東広島市</p> <p>身体がここまで開放できるのか！というくらい自由なイメージでした。コンテンポラリーはまだまだ未知の世界なので、機会があれば又、みたいです。</p>
<p>30代 女性 広島市</p> <p>面白い催しだったと思います。回数を重ねて欲しいと思います。出演者の方の作品の意図とは違う感想をもって見ていましたが、わからなくても面白いものは面白いと思います。</p>	<p>30代 女性 広島県福山市</p> <p>コンテンポラリーダンスを集中して真剣に見たのは初めてで、とにかく人間の身体の可能性に感動しました。あんな動き私にゃ無理だ…という落胆と、踊っている人の気持ちにシンクロしていい気分になったり、と複雑な気持ちでした。</p> <p>コンテンポラリーってどんな風にして作品が出来あがっていくのか、ちょっと聞けて嬉しかったです。</p>
<p>40代 女性 広島市</p> <p>ダンスを見るのは好きですが、こんな形でのダンスは初心者なので、見る方側ももっと成長しないといけないなと思いました。</p>	<p>40代 女性 広島市</p> <p>コンテンポラリーダンスのステージは初めての体験です。今までのダンスの概念が、何だったんだろう?と感じたのも事実です。絵画で言うならピカソの絵を見て驚いたような心境です。何回も体験する事によって又違った見方、感じ方をすることができるかな…とも。</p>

女性、広島市

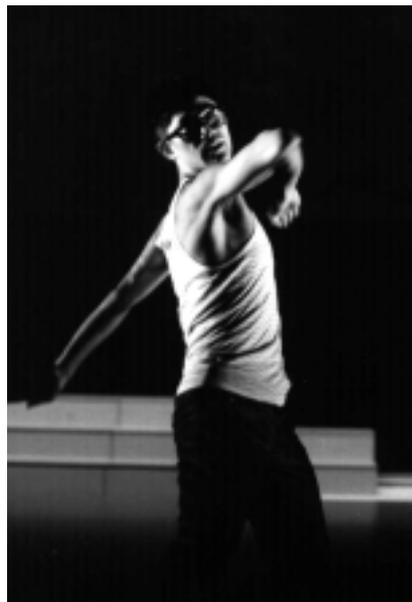
初めて観る方ばかりだったので、とても面白かったです。東京や大阪に行かなくても、地元で新しいダンスに出逢えるのがとても新鮮で嬉しいです。これからも広島に来て下さい。

50代、女性、東広島市

まずこんな舞台の使い方もあるのかとびっくり。コンテンポラリーダンスの体の中から踊るということが、少し分かりかけてきました。創る側と鑑賞する側の双方が1つの舞台をつくるという実感がありました。アフタートークも初めての経験。ダンサー側の声が聞ける事に新鮮な喜びがありました。

女性、広島市

舞台と客席が一体となったものは、初めてでビックリしましたが、近くで見れ、動きの一つ一つが良くわかりました。コンテンポラリーダンスはまだなじみがないので、ちょっと理解が難しいです。



# 松山

# Matsuyama

会場:松山市総合コミュニティセンター  
カメラリアホール

## 実施概要

日時	10月30日(水)開場19:00 開演19:30 / 31日(木)開場18:30 開演19:00		
会場住所	松山市湊町7-5 TEL:089-921-8222		
チケット料金	一般 前売り 2,000円 当日 2,200円 高校生以下 前売り 1,000円 当日 1,200円		
出演者	天野 由起子 / 伊藤 郁女 / 合田 緑 + 三好 絵美 + 戒田 美由紀 / 近藤 良平 / ダンスユニット セレノグラフィカ		
主催	財団法人松山市施設管理公社	テクニカル ディレクター/照明	相川 正明
制作	アートリングコネクション Art ring - 場外編		



## 1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど

地方で表現活動をしている人達にとって他地域での露出は、刺激という事だけではなく、自分の現在いる位置を確認するために非常に有意義な事だと思います。またアーティスト間のコミュニケーションや、巡回公演を通して他のアーティストが作品を創っていく過程を垣間見る事の出来る機会があることも非常に良い事だと感じました。

## 2) 今後の課題点、改善した方が良いところ、展望など

巡回公演前か後に主催者ミーティングのようなものがあれば良いのかなと思います。“踊りに行くぜ”もvol.1から比べると、開催地は当然ながら、出演者も多彩になってきていると思います。企画されているJCDNさんにとっては本来の主旨に近づきつつあることで、制作、コーディネートは大変でしょうが(本当にお疲れ様です。)、 “踊りに行くぜ”が日本国内で持つその意義や位置付けが、より鮮明になってきているのではないのでしょうか。

今後は、主催者側が“踊りに行くぜ”を地元で開催することの意義や位置付けを鮮明にして行く必要があるのではないかと思います。出演者の顔ぶれ、集客、売上など運営する上で気になる事が多々あります。しかしながら同時に、主催者側にとっては“踊りに行くぜ”を単なるイベントで終わらせない、または参加するその先に何を掲げているのかなど、戦略なり方法論なりを作っていかなければならないと痛感しています。そういった意味で主催者の皆さんの意見を聞いて参考にさせて頂く機会があればと思います。ネット会議のようなものでも良いのかも知れません。

東京、関西在住アーティストが地方で踊る、地方在住アーティストが東京、関西で踊る、地方在住アーティストが他の地方で踊る、これらはそれぞれのアーティストにとって、その持つ意味合いが全く一緒ではないように思います。この所を分析なり整理なりしてゆけば、また新たに発展していく部分が出てくるかもしれませんね。  
本当にお疲れ様でした。来年度もよろしくお願い致します。



## 観客アンケート集計結果

総入場者数 325  
回収総数 76

性別・年齢別								
10代	20代	30代	40代	50代	60代	60代以上	不明	計
13	45	9	4	3	-	1	1	76

### 情報の取得 [ ]内詳細

タウン情報誌	1
出演者	10
リビングORクリック	2
新聞告知	2
DM	13
置きチラシ	9
知人	42
その他	1

[場所: 坊ちゃんスタジアム、鹿島、県文、Lab、ダンススタジオMOGA]



## 内容についての感想...観客アンケートより抜粋

10代	20代
<p>大きい会場で見ると思っていたのがこんなに近くで見れてとても良かったです。顔の細かい表情まで見れて、自分も入りこめた感じでした。有名な方が松山に来てくれて、しかも生で見れて良かったです。うれしかったです。ぜひまた見に来たいです。</p>	<p>ダンスユニットセレノグラフィカさんの作品がとても好きでした。あのような雰囲気の出せる作品を創りたいと思っています。2人の関係性とか、アイコンタクトとか、“間”がとてもうまくみ合っていて、本当に好きです。</p>
20代	20代
<p>すごくおもしろかった。それぞれちがう作品で、それぞれの色があって、そういうのを全面に出せるのっていいなと思う。</p>	<p>各作品ともすごくおもしろかったです！！作品を作る上で、こういう表現の仕方があるのか、こういう視点から捉えることもできるのか～とすごく勉強になりました。</p>
20代	20代
<p>伊藤さんのが、素晴らしい肉体美と感情性で、心に打たれました。失恋という難しい気持ちが良く伝わってきた。 自分が踊りをつくっていくうえで、参考にしたいことがたくさんありました。見に来てよかったです。</p>	<p>他の地方の方々の演技を見ることができて、面白かったです。でもそれも個人のものなのかと。やはり比べることしかできませんが、リピートで見ることができた作品などについては変化振りなど楽しめました。</p>
20代	20代
<p>各地からやってきたアーティストに出会えてよかった。やはり松山のDanceとは異なる“強さ”みたいなものを感じました。 作品としてテクニックや完成度が高いのはもちろんですが、「こうだ!!」という説得力がどの作品にもあったと思います。 他県の開催も機会があればぜひ見たいと思いました。</p>	<p>スタッフの人が公演中にしゃべったり、ガサガサしているのが気になった。企画は面白いと思うので、続けることに意味があると思う。</p>
30代	40代
<p>天野さんの作品は通常私が生活している次元とは別の異次元の空間で踊っているような感覚を覚えた。進化するダンスと映像をうまく活かした総合芸術だと思う。</p>	<p>地方での公演で東京の方々の作品を見ることが出来て大変良かったと思う。  松山の方々ががんばっていますね。全国に松山の活動を伝えて欲しいですね。</p>
50代以上	50代以上
<p>人柄がいいのが伝わる踊りは、こちら側も楽しくなる。思いも大事だけど、やっぱり人間性が出るのでしょうかね。</p>	<p>刺激的且つ楽しい公演でした。各々に表現に対してピュアであることが嬉しい。 卓越した技術・独自性・創造的でした。 各地域の若い才能あるダンサーを見ることができ、リフレッシュできました。  来年も是非この企画を!</p>

## アーティスト別アンケートより・・・内容についての感想

### 天野 由起子作品

・好きな世界でした。スライドの花・衣装・白い百合と土・様々な小道具と色を使いながら透明感がありました。動きも面白かったし、テルミンの音楽も効果的。祝祭性と普遍性、伝わりましたよ。(終わり方、もっと適切な何かがあるような・・・?どうでしょう。)  
異次元の夢の世界へ誘われました。

・怖いくらい世界に入っていたので、観客も連れて行きそうなくらいでした。衣装と照明が良かった。

・始めは(?)と思ったのに、気がつくとき吸い込まれていた。ユリとダンサーの対話が印象的で、特にサンサンスの白鳥のシーンは切なくて熱い私の中のいろんな感情とつながってとても納得のいく作品でした。ウデ、肩の筋肉がステキでした。

### 伊藤 郁女作品

・独特な身体の柔らかさが遺憾なく活かされ(ギリギリのところでも品良く)シンプルなテーマであれだけ表現できるダンサーとしての力量に関心。中盤が整理されたらもっと良いのでは。女性ならではのあの捨身の踊りに感動。心音から始まるひとつの生命の存在が軋む、苦しさ、哀しさ、甘やかさ、切なさ・・・。

・最初蜘蛛みたいで、柔らかい体を使った動きで凄いなと思いました。ただ、全体的に同じような感じでもっと転換があったらいいなと思いました。

・美しい身体と説得力のある動き、特に背中に釘づけでした。筋肉、骨が動くのがよく分かるので、身体から目が離せなかった。前半ですっとフロアにいる時には早くその長い手足がもっと大きく速く動いていく様が見たくて少々ウズウズしました。他のこれからの作品も見たい!!!と思いました。

### 近藤 良平作品

・出てきた瞬間から独特な持味に笑ってしまいました。テクニックも表現力も十分ありながら、さりげないところが又良い。瞬時の存在感の凄さ。発想もユニーク。父ともなる男性の多面性が可愛く、切なく、おかしく表現されていました。シリアスな作品も是非見たいです。

・こんなに楽しい作品で思わず泣いてしまいました。近藤さんの中のこれから赤ちゃんが誕生するというさりげない期待感のある作品ですが、“私自身”のフィルターを通すことで、さらに新たなイメージが生まれ、まさに、コンテンポラリーダンスだなあとつくづく思いました。

### 合田 緑+三好 絵美+戒田 美由紀作品

・前回見たものより随分質が高くなっていましたが、緊張していたのでしょうか。この作品の楽しさ、自由さが薄くなっていて残念。もう少し整理してギュッと絞ったシャープさが欲しい気がします。(青いシナプスのイメージ)終わり方は良かったです。

・3人の個性が出ていて見ていて飽きない!!!動きが喋ってるみたいな感じ。体で話しているようでした。最後はふきだしてしまいました・・・。

### ダンスユニット セレノグラフィカ作品

・コンセプトが明確。お尻を始め、背面の動きの、又は性の異なるおもしろさ、立ち上がらないこと。ダンスだからこそ表現できる瞬間へのココロとカラダのあいまいさや変化等々。ユニークな楽しい作品でした。

・すごいおもしろかったです。ほのぼのしててずっとニヤニヤして見ていました。フロアの動きばかりなのに、2人の息やタイミングがぴたりだったので見ごたえがありました!後半の仲良さそうな感じにうっとりきました。

# 大阪

# Osaka

## 会場: Art Theater dB

### 実施概要

日時	11月2日(土) 開場 18:30 開演 19:00 11月3日(日) 開場 14:30 開演 15:00		
会場住所	大阪市浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート3F TEL 06-6646-1120		
チケット料金	前売 一般 2500円 DANCE BOX会員 2300円 当日 一般 3000円 DANCE BOX会員 2800円		
出演者	伊藤 郁女 / 北村 成美 / Dance Samadhi / 山賀 さくら		
主催 / 制作	NPO法人 DANCE BOX	舞台監督	大田 和司
エグゼクティブ ディレクター	大谷 燦	照明	吉本 有輝子 (GEKKEN staff room)
ディレクター	文	音響	秘魔神
運営スタッフ	葦田 幸代、横堀 ふみ、竹ち代 穂也		
スタッフ	福岡 まな実、yum、中田 そよか、北 真理子、竹内 忍、坂田 可織、 鈴木 雄家、土居 里佳、姜 明珍、勝藤 珠子、塚原 悠也		



### 1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど

・ 推薦したアーティストの作品、及びアーティスト自身が大きく成長したこと。再演すること、見知らぬ場所で見知らぬ観客の前で作品を上演する機会がもてること、様々なアーティストやプロデューサーに出会えるのはこの企画ならではのと思う。

・ まず、4箇所 8箇所 12箇所と、開催箇所が増え確実にダンスが各地に広がっていること、それに伴いアーティストができていくことがすばらしい。大阪では3回目の開催となったが、DANCE BOXとしての積極的且つ継続性ある活動がJCDNのコンセプトにおける関西での役割を担うことにも繋がっていくので、巡回公演を含めたJCDNの活動を長い目でとらえていきたいと思う。

・ アンケートなどから、関西圏外に拠点を置くアーティスト(及び作品)が見れるということは、観客にとって非常に貴重な機会である。

・ 手売りが少なく、一般の観客が多かったのは、僅かながらもダンスを見る層が出来ている事を実感。アンケートも回収率が高く、また内容のあるアンケートも多いので、この層を拡大していければと思う。

・ 関西のアーティストにとって「関西基準」ではない視点を見る機会として重要だと感じた。新人アーティストにとって、目標になる。

### 2) 今後の課題点、改善した方が良いところ、展望など

・ Art Theater dBのオープニング時期に近く、また、年内のダンス公演にも埋もれて、企画として目立たなかった。情報は行き渡っていたが、特徴づけが弱い。どのように広報していくのが課題。

・ 関西の観客層自体が、実際には未だそんなに広くなく、もっともよく見に来る客のみが集まった感がある。この巡回公演に限らずだが、観客層の拡大は目下目標。  
(アンケートにはDM希望の方も多かったのですが、まだ出来ることは多いはず。)

・ チラシが見づらい。次回からdB総合チラシに入れることも検討。

・ アーティストにとっての目標となる位置付けにする。ステイタスを作る。(DANCE BOX出演アーティストの中には、JCDNのことや巡回公演の事を知らない人が多いと思うので、日頃から常に告知を心がけたい。



## 観客アンケート集計結果

総入場者数 87  
回収総数 64

### 性別・年齢別

	10代	20代	30代	40代	50代	不明	計
男性	-	10	5	3	1	2	21
女性	3	16	5	3	1	9	37
不明	-	-	-	-	-	6	6
計	3	26	10	6	2	17	64

### 地域別

大阪	京都	兵庫	滋賀	奈良	東京	名古屋	青森
17	15	9	4	2	2	1	1

### 情報の取得 [ ]内詳細

チラシ	17	[どこで入手したか: dB、挟込、ダンスピエンナール、京都東山青少年活動センター、京都芸術センター]
劇場	2	
ホールからの案内	5	
友人から	12	
ぴあ	3	
Lmaga	1	
新聞	1	[読売新聞]
その他	4	[出演者、松山ダンスウェブ]



## 内容についての感想...観客アンケートより抜粋

20歳、女性、大阪市

はじめの、ビニールに入った人間が次の生命ということは気付きませんでした。数々の暗転でシーンを分けているところにメッセージがあり、ラスト扉を開けるしぐさで次の世界にってゆうかんじがしました。

2作目は、心が裂かれるような体の使い方が劇的でした。体の美しさに頼っている気がしました。振りがHeartの収縮をヒントか書いてあったのですが、強弱に乏しかったのかなって思いました。切り裂くような一瞬がみえた。でも入りやすい作品でした。

3、これは本当にせつなかったです。

4、どの作品にも言えますが、ホールの上を走る電車の音がすごい緊迫したシーンをつくってました。はじめのスカートをたぐり寄せるシーンが花束に見えて、徐々に足の露出によって大人の匂いがしました。

23歳、女性、京都市

関西のダンサーだけでなく、いろんな所の方を見られるのは非常にいい企画だと思います。  
・マユミさんは、振付に専念された方がいいように思います。(カバンから出てくるところ、足だけ出てきて最後まで出てこない方が面白いです。個人的な好みですか?)

・伊藤さんは、もっとバレエにとらわれないでほしい。音楽のセンスがいい。ナルシスティックな部分が見る人との距離をどんどん広げていったような気が。

・ざくろさんはずるいです。コマネチはつまんなかったですが、かっこ良かったです。最後の“脇バサツ”は、予想のつく動きで残念でした。グンナイにすぐ入って良かったのでは?

・成美さんは、安心して見れました。手の動きのところ(照明が上から落ちて身体を揺らすシーン)好きです。つかみもばっちりです。やっぱり見る人を高揚させるようなダンスがいいダンスなんじゃないでしょうか。

26歳、女性、神戸市

出演された4組の雰囲気はどれも違って、バランスよくトータル的に楽しめました。いわゆるコンテンポラリーダンスっぽい動き(何かバレエの延長みたいな)は制限が大きすぎて面白くないと思う。休憩前の2組はどうもそこから抜け出せてない感じがしました。

ざくろさんは初めて観させて頂きましたが、笑えました。面白かったです。北村さんはいつものパワフルさ、無茶苦茶ぶりに加えて、一つの作品性みたいなものがぐっと丁寧な創られている感じがしました。面白かったです。

27歳、男性、職業不明、大阪府堺市

ダンスといえば今まで優雅で美しいというイメージでしたが、こんなにいろんな形のダンスがあるのに感動しました。ダンスの魅力がますます伝わってとても良かったです。一つ一つの動きが細かで、動作に興味あるものが伝わってきました。

27歳、女性、兵庫県西宮市

普段はお芝居などを観る事の方が多く、ダンスのコトはあまりよくわからないのですが、今日はとても楽しく見せていただきました。

特に後半2作は好きです。前半2作は映像を見ているようで、生の感覚が感じられにくかったのですが、後半2作はステージと客席の壁がとっぴられるほどのパワーが...。笑いという要素もあるとは思いますが、それだけではない何かがあるのだと感じます。可笑しく滑稽さの中にもかっこ良さを感じました。

28歳、男性、京都市

最初のグループはすごく演劇的だったのがものめずらしかったです。伊藤さんは今後の展開が楽しみです。これぞコンテンポラリーというか、身体表現ですごいというか。

ざくろさんと北村さんの作品は、作風は違えど、2人ともすごい私小説を感じました。コラボレーションとかやってほしい、というすごい無茶な希望を持ちました。すごい化学変化が起こりそう。

<p>28歳、女性、宇治市</p> <p>全身、身体の使い方がすごく繊細で、使いこなされていて感心させられました。又もう一度、観たいと思う作品でした。瞬発力、粘り、迫力、思い入れ……それぞれに素晴らしかったです。</p> <p>個人的には2作品目の心臓の動きが気に入りました。4作品目の大きい様でまじめな動きの作品も好きです。</p>	<p>29歳、男性、学生、東京都</p> <p>多彩な若い個性に溢れている。内実した動きが実に健やか。</p> <p>伊藤さんと北村さんの作品が印象的だった。前者はのた打ち回り深い傷を背負いながら重力に抗する強さを感じました。北村さん、繊細な所作とダイナミック、コミカルな要素の鮮やかな混在。</p> <p>劇場、ダンサー、観客、スタッフの共同作業で一つの作品を練り上げていく熱気が、この時代に風穴を空けてくれるのではないのでしょうか。</p>
<p>43歳、男性、大学職員、神戸市</p> <p>伊藤さん、動きの速さや関節の動きが、そのまま直接的に感情を喚起するようで、素晴らしかった。</p> <p>しげやん、腕から指先の抒情的な動きと、壊れたような破裂力の対比というか、落差がすごかった。爪先立ちの力というのもすごいと思った。</p> <p>山賀さん、「ネタ」の取り組み方がストレート過ぎて、それがどういう連なりになって作品になっているのか、見えない。</p> <p>アフター・トークって、やっぱりつらいなあ。何か工夫できないものなのでしょうか。時間的にも長くなりすぎるし。</p>	<p>45歳、女性、泉大津市</p> <p>前衛的な表現を観るのは始めてです。ユニークでそれぞれに独自の世界を創り上げられているのに魅せられました。伝統とは対照的な表現を見て感じたことは、ステージとダンサーとの感性と波長のセッションがテンションを盛り上げてゆくのではと感じました。</p>
<p>未記入</p> <p>よく動いているのに平板。後半少し面白かったのに。</p> <p>わかりやすく美しい失恋です。どんなタイトルでも同じような動きになってしまうように感じる。</p> <p>面白いところもあるけどもっと作って下さい。宴会の続きのように思う。</p> <p>体の張り方には頭が下がるが、安易だなと思うとき、そのギャップが大きい。面白さにつながらない。</p>	<p>未記入</p> <p>出演者のトークがあり、とても新鮮でした。びっくりしました。(ダンサーの方、ちゃんとお話なさるのだと思って...(笑))また、アフタートークの中でダンサーの方の感性を、より身近に感じることができ(特に言葉で)、面白かったです。</p> <p>『しげやん』最高!!初めて観させて頂きましたが、踊りの中に美しさがあり、そして明るさがあり、面白さがあり…。コンテンポラリーは難しい(理解できない)ものだと思っていましたが、少し印象が変わりました!</p>
<p>未記入</p> <p>1、面白かった、世界や構成などで。特に最後に女の人が感情的な感じになりながらも振り動いているところがなんか、人の心の摩擦を感じさせた。</p> <p>2、すごく強靱なBodyで力のある振り動きで踊るのは、実はあそこまでやらねば、壊れてしまい、自分を保てなくなるからあーしてしまう一人の女性のような気がして、そういう意味で、とても女性的で良かった。</p> <p>3、愛があるなーと感じた。詩のボクシングを思い出した。いいキャラ。強いて言えば、上半身のボタンを全部はずして乱れてほしかった。</p> <p>4、客いじりと構成がうまいと思った。身体をはってるのがとてもイイ。影が宇宙人っぽく楽しめた。</p>	

# 札幌

# Sapporo

## 会場: アトリエ インディゴ

### 実施概要

日時	11月 9日(土) 19:00開場 19:30開演 / 10日(日) 14:30開場 15:00開演		
会場住所	札幌市中央区南4条西18丁目西向き		
チケット料金	前売: 2,500円 当日:3,000円 / 学生前売: 1,500円 学生当日:2,000円		
出演者	CRUSTACEA / 小浜 正寛(ボクデス) / 丹波 直美 / 星加 昌紀 × 高橋 砂織		
主催	コンカリーニョ	照明	高橋 正和
協力	アトリエ・インディゴ	音響	大江 芳樹
後援	札幌市・札幌市教育委員会	舞台監督	細川 和寛
制作	斎藤 ちず	スタッフ	加藤 哲也



## 主催者アンケート

齋藤 ちず (コンカリーニヨ)

### 1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど

・全国で活動しているいろいろなダンサー、グループの新鮮な作品の鑑賞が可能になることで、たくさん人の刺激が受けられるし、また、観客にもその機会が提供でき、観客創造に役立つと思われる。

・共同で企画を行うことで、さまざまな情報提供が得られ、有意義である。

・毎年、継続することで少しずつではあるが、意見交換のできるダンス関係者が増えていき、そのネットワークを使うことで地元で行うほかのダンス企画にも役立っている。

・個人的な感想に近いが、ここ数年、松山での取り組みがとても気になっていて、今回、松山からの作品を見られたこと(それが、またとても面白かったのですが)、松山の状況を聞かせてもらったことは、収穫だったと思う。

・本年、初めて、地元からの出演者を決定するための公開オーディションを行い、その場での講評を聞く機会を得て、ダンス作品にどう、言葉を通じてアプローチしていくかのヒントを見た。また、オーディションや講評に関する観客層の関心の高さを知りました。

### 2) 今後の課題点、改善した方が良いところ、展望など

・地元でのマネジメント体制の整備の必要性を痛感している。

・集客に関して、毎年この企画を楽しみにしてくれている特定のファン層のようなものはありながら、数字としては、依然伸び悩みでどういう打ち出し方をして、広げていくのがよいか、最大の問題と考えられる。

・地元のダンサーや作品を育てていくための継続的なプログラムをつくりたい。



## 観客アンケート集計結果

総入場者数 102  
回収総数 24

### 性別・年齢別

	10代	20代	30代	40代	50代	不明	計
男性	1	-	-	1	-	3	5
女性	7	2	1	2	-	3	15
不明	-	-	-	-	-	4	4
計	8	2	1	3	-	10	24

### 地域別

札幌市	江別市	小樽市
13	3	1

### 情報の取得 [ ]内詳細

チラシ	4	[挟み込み、カレーショップらっきょ、コンカリーニョ]
新聞	6	[北海道新聞]
DM	3	
知人	2	
その他	6	[出演者より、ボクデスWEBサイト]



## 内容についての感想...観客アンケートより抜粋

10代 高校生 札幌市	16歳 女性 高校生 江別市
<p>こういう本格的なダンスは初めて観ました。今までTVでよくやっているようなカウントでのダンスしか観た事がなく、表現としてのダンスもいいなぁ・・とか思いました。</p> <p>ダンスのコトは足0.1歩くらいしか踏み入れてないですけど今日をきっかけに、少しづつやっていきたいと思いました。これからも頑張ってください。2番目の女2人の人達のつまさきのポイント具合がサイコ です。</p>	<p>演劇部でダンスをやっているんですが、今までダンスの中での世界観を考えずにやってきたフドキ者だったんですけど、ダンスの世界観というのはとても大切なのだなとしみじみ思いました。</p>
16歳 女性 高校生	男性
<p>松山からいらしたお2人に。素敵です。ホレました。ご夫婦と聞いて納得しましたが、ものすごい息の合いようですね。</p> <p>私は丹波先生の生徒で、この前の舞台でボディ・コンタクトもやったんですが、その前に観たかったです。動きに変なところがなくて、ベクトルの方向が自然で思わず目を見開いてしまいました。次の公演も頑張ってください。</p>	<p>星加さんと高橋さんの、すげえ。観ている方に訴えるものが強くある。調和(グローヴ感っていうんでしょうか)と世界観から来ているのかなどと考えてみたりしますが、とにかく観に来て良かったと思いました。</p> <p>小浜さん、あぶくはどうやって出したんですか？なんだかわけわからなかったけど、不思議で楽しい感じがしました。</p>
女性 札幌市	未記入
<p>4作品でしたが、種類=趣の違った作風4つで、とてもバランスが良いと思いました。</p> <p>今回は初めての人を色々誘って観に来たのですが、きっと飽きずに観てもらえたのでは？と思います。(本当のところは本人に聞かないとわかりませんが)楽しかったです！私が好きなのは、動きと動きの途中=隙間を垣間見る事です。</p>	<p>本当は昨日だけにしようと思っていたが、最後のトークを聞いて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カニは今日どうなっているか(ボクデス)</li> <li>・インスピレーション即興部分はどうするのか(丹波さん)</li> </ul> <p>が気になって、また今日も来てみました。満足した！全部良かった！個人的にはナチュラルな動き、星加グループが良かった。しっかりした構成クルスタシア、60分全体を見てみたい。</p>
女性 江別市	
<p>・ボクデスの方映像の使い方がとても面白かったです。自分の動きにもっと自信をもってください。カニは笑いそうになりつつ...いっそ新巻鮭はいかがでしょう？</p> <p>・大阪の方は、記号というか、文字を見ているような印象でした。スティックな感じが新鮮でした。</p> <p>・丹波さんは何度か拝見していますが、すばらしいテクニックですね。今までとちょっと違う感じの踊りにみえました。</p> <p>・星加さんと高橋さん、個人的にはとても面白かったです。Body Contactが自然な動きからつながっていて良かった。あやうさとかドキドキ感が何箇所かあって次は何をするんだろうとどんどんひき込まれました。これからも皆さん楽しく踊ってください。</p>	
女性 会社員 札幌市	
<p>何が始まるのだろうという程よい緊張感からボクデス！！で少しゆるんでクルスタシアでまた少し締まって、最後にプチン！！</p> <p>またゆるんで丹波さんとまた少し締め、芽が出て、復活 何かやわらかい感じで、そのままの流れで星加さん高橋さんの息の合ったコンタクトへ。可愛いっ！！</p> <p>もう少し見ていたところで終わってしまった。全てが違った作風で面白かったです。バックのガラスが意外と良かった。後ろ姿も大事だと...カニの行方が気がかりです~。</p>	

# 名古屋

# Nagoya

## 会場:七ツ寺共同スタジオ

### 実施概要

日時	11月22日(金)7:00PM開場 7:30PM開演 23日(土)2:30PM開場 3:00PM開演		
会場住所	名古屋市中区大須2-27-20 TEL 052-221-8646		
チケット料金	前売 2,500円、当日 2,800円 / 学生券前売 2,000円、当日 2,300円		
出演者	小浜 正寛(ボクデス) / 手塚 夏子 / 山田 オリエ / てらにしあい、tomomi		
主催	七ツ寺共同スタジオ	舞台監督	村瀬 満佐夫
助成	アサヒビール株式会社 (七ツ寺共同スタジオ自主事業年間助成)	テクニカル ディレクター/照明	相川 正明
		音響	糟谷 卓司
制作	寂光根隅的父、大橋敦史		
制作協力	伊藤ふき代(アートプロデューストーチエ)、山田珠美(ラブハウス)		
関連事業	相川正明 照明ワークショップ 11月20日 出演者によるダンスワークショップ 11月24日		



**1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど**

名古屋でまだ馴染みのない未知のダンサーと観客との出会いを果たしたこと。また日頃ダンスをあまり観たことの無い人たちに今回観て貰えたことは、ダンスの裾野を広げるために意義があったと考えます。

ただ、出演者の面白さ、斬新さは観てもらった観客には十分に伝わったと思えたが、事前には浸透しなかったため動員にはつながらなかった事が残念である。また、この地域にも私や伊藤さん、珠実さん以外にもJCDNの会員がいるのだが、その人たちと本公演との関わりをつくれなかったことも非常に残念に思う。

**2) 今後の課題点、改善した方が良いところ、展望など**

この地域に於けるJCDNの活動を「踊りに行くぜ！！」に限定せず、私たち会員がJCDNの名前でワークショップやラボなどの様々な企画を展開していきたい。それにより、JCDNの名前を浸透させ、この地域に新たなダンスのネットワークをつくり、また新しい観客を掘り起こしていきたい。そのような活動の一環として「踊りに行くぜ！！」を位置付けることで、観客動員の増加や地域社会への浸透を計っていけるのではないかと考えている。



富山

Toyama

会場：富山県民小劇場  
オルビス

## 実施概要

日時	11月26日(火)、27(水) 開場:18:30 開演:19:00		
会場住所	富山市桜町1-1-61 マリエとやま7階[富山駅前] TEL076-445-4531		
チケット料金	前売・当日共2,500円 学生券2,000円		
出演者	CRUSTACEA / 星加 昌紀 × 高橋 砂織 / 松本 大樹 / 安川 晶子		
主催	富山県民小劇場オルビス	テクニカル ディレクター /照明	相川 正明
共催	富山県		
助成	芸術文化振興基金	舞台/音響/制作	オルビス



## 主催者アンケート

笹谷 努 (富山県民小劇場オルビス)

### 現状・課題

富山のダンス界は、スタジオやサークルの先生・生徒が活動の中心であり、ジャンル・人の横の広がりがなかなか持ちづらい状況です。チラシ、ダイレクトメール、口コミなど宣伝活動を通して、ダンス関係者や興味のある人に勧めても、接したことのないアーティストの舞台公演に誘導することは非常に難しく、ましてや興味のない人を誘導することは特に難しいのが実情です。しかし、このような状況を少しでも変えていきたいと本事業に参加しましたが、2年目を終えたオルビスは、広がり、発展を見い出せない状況です。現状のままでは、今後の展望がつかめず、たとえダンス関係者をターゲットにして集客が図れても事業の継続意義が見出せずマンネリ化に陥ると思われます。

### 原因

・ダンスの底上げに結びついていない。興味のある人を増やし、興味のない人にも関心を持ってもらう施策がない。そのため「ダンスの魚が少ない中で、釣りをやってもなかなか釣れない」状況です。  
・誘導施策が乏しい。誘導活動は、チラシ、ダイレクトメール、メール、新聞等の広告媒体、ホール職員によるダンス関係者などへの宣伝活動が中心。

### 方策

・現状のような舞台公演やワークショップだけでは、上記の原因の解決にはならないと思われます。ダンスの素晴らしさ・楽しさを知ってもらい、新しいダンス(創作含む)に興味を持ってもらう多様なプログラムの確立と連携を図りたい。特に青少年を対象としたプログラムを学校との連携により確立したい。地元のダンサーの出演など地域を越えた交流は非常に大切ですが、集客を図るための手段として捉えるのは根本的な解決にはならないと考えます。

・とにかく一度舞台公演を鑑賞いただくことから始めることが重要なため、現在のようなホール職員や宣伝媒体だけではなく、ホールサポーターやダンス関係者など地域の多くの方々とのネットワーク・協力体制を整備していききたいと思います。



## 観客アンケート集計結果

総入場者数 127  
回収総数 27

### 性別・年齢別

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明	計
男性	-	1	1	-	1	1	-	4
女性	-	6	2	4	-	-	2	14
不明	-	1	-	-	-	1	7	9
計	-	8	3	4	1	2	9	27

### 地域別

富山市	富山市外県内
9	10

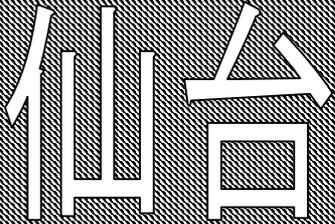
### 情報の取得 [ ]内詳細

チラシ	4
知人より	8
ライブ会員	8
その他	3 [オルビスより、偶然知って]



## 内容についての感想...観客アンケートより抜粋

20代 学生	20代 女性 学生 高岡市
<p>こういう作品を見る機会は滅多にないので大変貴重です。何かを感じたり伝えたいと思う事はいつもだけれど、毎日の中に居過ぎると忘れてしまいそうになります。</p> <p>自分があって他人があってお互いが確かに響き出来る瞬間は言葉とかでなくてもあるんだなと思いました。とても良い刺激です。</p>	<p>ダンスを見るのは初めてでしたが、精神的なことを表現されているのが良かったです。でもやっぱりまだ何が伝えたいのか分かりづらいのでダンスをもっと見て、伝えられていることを受け止めることが出来るようになりたいです。ダンスがいつはじまり、どんな歴史があるのか知りたいと思いました。</p>
20代 女性 会社員 黒部市	20代 女性 富山市
<p>安川さんの作品が、心に残りました。見たくないもの、持ってたくないものを、いっぱい抱えて...苦しいなあ。「軽み」への脱皮 それは難。逃げずに知ること、認めること。そんないさぎよさを感じました。</p>	<p>とても面白かったです。最後のトークが良かったです。皆さん喋り慣れているようで分かりやすかったです。</p> <p>とてもいい舞台なのにお客さんが...やはり平日の夜というのが...キツイですね。</p>
30代 女性	30代 女性 会社員 富山市
<p>踊りと音と照明(これが特に影響するかも)の一体になった舞台ですね。どこまでが構築されていて、どこまでが即興なのかと思ひめぐらしました。</p>	<p>オルビスライブ会員になって、色んな表現方法・体を使ってのダンスをたくさん見てきました。</p> <p>今回思ったのは、表現することは、気持ちが良いようで自由になれる様な気がしました。普通の私たちは体も心もガンジガラムになってしまうことが多く、表現する手段を持っている人達はうらやましい。後半の2人組みの2組はやはり2人での掛け合いがありオシャレだったりユーモアが入っていておもしろかった。</p>
40代 女性 高岡市	女性
<p>星加さんと高橋さんのは夫婦漫才を見ているようで、というよりも漫才夫婦の日常を見ているようで楽しかったです。</p>	<p>それぞれが個性的なキャラクターとパフォーマンスで大変面白かったです。</p> <p>全体的に意図(...を理解していたというわけではないですが)伝わりやすかったというか、分かりやすい内容だったと思います。(去年はとてもマニアックな感じでしたが。)富山でのコンテンポラリーはこれぐらいが好感持てそうな気がします。私自身どのキャラにも好感持ちました。</p>
女性	未記入
<p>安川さんの作品...最初の行進曲の部分、北朝鮮のマスゲームに象徴される全体主義からの脱却を望むようにも思われました。又反対に、白いフサフサが毛皮にも見えて虚構の世界からの脱却?にも思えたりして...</p> <p>クルスタシアの作品...1番個人的に好きな世界です。メリハリもあつたしエロティックでオシャレ。</p>	<p>いつもユニークなダンスを見せて頂き、楽しんでいます。いろんなものを見せて頂き、自分の頭が柔らかくなる気がしてうれしく思っています。</p>
	未記入
	<p>コンテンポラリーダンスを見るのは初めてで、ジャンルの割にはみんな個性があって共通点がなく、好みのはっきりするものなんだなあと考えた。かっこ良かった。斬新だった。また見てみたいと思った。</p>

	<h1>Sendai</h1>	<p>会場:エルパーク仙台 スタジオホール</p>
---	-----------------	-------------------------------

実施概要			
日時	11月30日(土)開場18:30/開演19:00 12月1日(日)開場16:30/開演17:00		
会場住所	宮城県仙台市青葉区一番町4丁目11-1 141ビル6F TEL 022-268-8300		
チケット料金	前売 2,800円 当日 3,300円		
出演者	天野 由起子 / 小浜 正寛(ボクデス)ダンスユニット セレノグラフィカ / 千葉 里佳、今野 由紀、西 美紀子		
主催/制作	「踊りに行くぜ!!」仙台公演実行委員会	舞台監督	石井 忍
後援/助成	(財)宮城県文化振興財団 (財)仙台市市民文化事業団	テクニカル ディレクター/照明	相川 正明
		音響	コントライブ
実行委員	阿部 立男(実行委員長)、石井 忍、 伊藤 みや、太田 久美子、 亀山 季代子、鎌田 順子	舞台監督工房	八巻 寿文、坂本 晋、 イトウ ユウコ
		サポーティング・ スタッフ	千田 祥子、新妻 理恵子
制作	J-project	仙台版 チラシデザイン	あだちまさき



## 主催者アンケート

鎌田 順子 (J-project)

### 1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど

仙台では、初の試みの部分が多く、出演するダンサーも、携わるスタッフも、またお客さまにとってもとても新鮮で、皆さんに喜んでいただいた。  
ダンス・パフォーマンスに対するイメージが大きく変わった人も多くいたことと思う。

地元ダンサーは中央都市で活躍するダンサーとの交流により、ダンスに対する意識や取り組み方について学ぶことも多かった。

### 2) 今後の課題点、改善した方がよいところ、展望など

全体のチラシはもちろん必要と思うが、その中で会場のPR・出演するダンサーを目立たせるのに苦労した。予算のこともあると思うので、難しい部分でもあると思うけれども、チラシのどこかに各会場毎のスペースがあるととても嬉しいです。

仙台独自の課題としては、まずは「踊りにいくぜ!!」を続けて開催することを前提に、選考会を行えるくらいのパフォーマーを育てていくこと。



## 観客アンケート集計結果

総入場者数 311  
回収総数 86

### 性別・年齢別

	10代	20代	30代	40代	50代	不明	計
男性	-	8	3	1	-	-	12
女性	9	21	5	3	3	9	50
不明	1	1	-	-	-	22	24
計	10	30	8	4	3	31	86

### 地域別

仙台市	仙台市外県内	山形	福島
49	7	7	1

### 情報の取得 [ ]内詳細

ポスター	3
チラシ	35
新聞	1
DM	4
友人	33
その他	15

[バレエ教室、あべひげ、PASSO、父、母、先生、出演者、スタッフ、テレビ、他]



## 内容についての感想...観客アンケートより抜粋

12歳 女性 学生 仙台市	12歳 女性 学生 仙台市
未知の世界につながれてるような気がした。	さいごの人がなぜかことばにできないようなおどりをおどっていてなぜかなしい心自分のいやな心がよりあつまつたようなどり・音楽だったのでちょっとこあいかんじがしました。...
18歳 学生	21歳 女性 学生 山形市
手や足、体 全身がのびるとこまでのび、ちぢむとこまでちぢみとても開放的な空間をともに味わえた気がします。	天野由起子さんのダンスを初めてみました。花に近づいていって最初の赤い照明で踊るところまではとてもひき込まれました。最後の展開がどうなるのかなと楽しみにして見ていたのですが、何かひとつもの足りない気がしました。でも一つ一つの動きにひき込まれました。とても面白かったです。
21歳 女性 学生 山形市	22歳 女性 学生 宮城郡
<p>このように創り込んだダンスを生で見るのは初めてでそれぞれに迫力があって面白かったです。かじりついて見ていた自分にびっくりしました。</p> <p>特に最後に踊った天野さんの作品がとても何かが生まれる感じがして印象に残っています(スカートをぬいだところとか)どれも人数が少ないのに舞台をまんべんなく使っていてすごいと思いました。天野さんも実際の舞台の大きさよりも大きく深く見えました。</p>	<p>心地よい非日常を感じることが出来て満足です。また機会があったら来たいです。</p> <p>この企画によって仙台に暮らしているながらダンスに触れられることはとても良いと思います。アフタートークがあったのでより興味がわきました。</p>
22歳 女性 学生 仙台市	22歳 男性 学生 山形市
すべてをもっていかれてしまい、つかれてしまいました。ヨカッタです。	<p>コンテンポラリーダンスとは、本当に自由な表現なのだと思った。特に小浜さんは大変忘れられない。これがコンテンポラリーダンス！？という驚きがあって、小浜さんが立っているだけでついつい視線がいき、見入ってしまうのは何か小浜さんのオーラだろうか。</p> <p>動きの迫力はダントツで天野さんだった。あのような激しい動きをずっとやっていると、疲れてきて、ダンスの強度が失われていくと思うが、天野さんは、強度が失われず迫力がものすごかった。</p>
24歳 男性 学生 山形市	未記入
ダンス公演を初めて見ました。表現されていることに目を奪われました。天野由起子さん、鋭く強く驚きました。セレノグラフィカさん、楽しくあたたかかった。	よく分かりませんでした。はじめはそんなものでいいと思う。こーいうものがあるということを知ったので、良かった。

<p>24歳 女性 会社員 山形市</p> <p>こういうものは、初めて見ました。もっととっつきにくいモノかと思ってましたが、とても面白かったです。イロイロなジャンルがあったせいでもあると思いますが見て良かったなあとと思います。</p>	<p>25歳 男性 仙台市</p> <p>おもしろい!! おもしろいぞー!! こういうのは初めて見たけど、十二分に楽しめました。人間の体、動いてスゴイですね。</p> <p>特に小浜さんの中間のが好きでした。人の頭の中をそのまま見ているようで、面白かったです。</p>
<p>26歳 女性 会社員 仙台市</p> <p>すわっているダンスとかもあってダンスは華麗なものかと思ってたので面白かった。</p>	<p>27歳 女性 会社員 仙台市</p> <p>休憩中のカニの匂いと子どもの泣き声がよくおかしさを誘いました。となりの子がカニはくもみたいでこわいこわいと言っていました。こういうのを初めてみましたがおもしろかったです。</p>
<p>28歳 男性 仙台市 アルバイト</p> <p>まず、こんなにお客さんが入っている事が実は正直言うと意外でした。実際に腰が重いといわれる仙台の人々が会場を埋め尽くすということに、なんかコンテンポラリーダンスがやがて大きい熱になりそうな勢いを感じました。</p> <p>その期待を裏切られる事ももちろんなく、信じられないほど幅広いものが観られて良かったです。21世紀に生きてて良かったと思いました。今年見たステージの中で1番良かったです。12月に言っているのも間違いありません。</p>	<p>29歳 男性 会社員 仙台市</p> <p>今回は様々な表現を楽しませてもらいました。自分にはダンスが何たるものか分かりませぬが、私の中のダンスのガインみたいなのはプチコワサレタというか自分を表現する無限の世界を見た気がします。</p>
<p>44歳 女性 主婦 仙台市</p> <p>それぞれが強烈な個性を出していただいてすごいインパクトが強かったです。中華料理とインド料理とパキスタン料理とメキシカン料理をいただいたような感じです。</p> <p>次回は何か一つのコンセプトについてそれぞれのアーティストの作品が観てみたいなと思いました。</p>	<p>女性 仙台市</p> <p>踊りに思想があって、とてもおもしろかった。目からうろこです。ライト、映像、音響、全てを駆使し、独自の世界を作り出しているのは、まさに現代アートそのものと、感動しました。</p> <p>仙台でもこのような世界に通じる企画が来てですばらしいと思いました。本当に心をくぎ付けにさせられました。</p>
<p>男性 アルバイト 仙台市</p> <p>画期的なイベントだと思います。複数都市間の交流としてかなり理想的環境だったと思います。是非続けていっていただきたいと思います。</p> <p>今回全く傾向の異なる踊りを4つ見て考えさせられたことに、ダンサーの大きさのイメージをどう見えるようにコントロールしているか、ということがありました。自分の見せたいスケールを実現できるかどうかの達成感にじかに影響してるかも、と思いました。皆さんに又会えたらいいなと思いました。</p>	<p>女性 仙台市</p> <p>色々な土地にいるアーティストが交流できるすてきな企画ですね。天野さんどうすれば自分が魅力的に見えるかわかっているなと思いました。セレノグラフィカさん、とっても優しいなと思いました。</p>

# 東京

# Tokyo

## 会場：セッションハウス

### 実施概要

日時	12月14日(土) 開場18:30 開演19:00 / 15日(日) 開場13:30 開演 14:00		
会場住所	東京都新宿区矢来町158 TEL03-3266-0461 e-mail session@tokyo.interq.or.jp http://www.interq.or.jp/tokyo/session/webRoom/		
チケット料金	チケット料金 前売2300円 当日2500円 STスポット横浜との共通チケット4000円(前売のみ)		
出演者	合田 緑 + 三好 絵美 + 戒田 美由紀 / CRUSTACEA 丹波 直美 / 星加 昌紀 × 高橋 砂織 / 山賀 ざくろ		
主催	セッションハウス	制作	セッションハウス企画室 /伊藤 孝、伊藤 直子、 時 悦子、田中 美佐、相馬 秀美、 河原 睦美、伊達 麻衣子、 飯田 真紀、窪田 玲
舞台監督	野沢 美和子		
照明	若尾 美穂		
音響	相原 美紀		



## 主催者アンケート

伊藤 孝 (セッションハウス)

### 1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど

セッションハウスは今回、JCDNとの話し合いで東京での作品発表がなかなか出来ない各地のダンサー達に、その機会を作ることに重点を置いて「踊りに行くぜ」を実施した。

セッションハウスの公演には北海道、群馬、大阪、愛媛から5組が参加、東京以外で起きているダンスの動きを広く知るまたとない機会となり、観客も明らかに地域差のある個性的なダンスを楽しんでいたように思う。

その一方で、観客動員が難しいという問題が残った。各地の公演を観客動員可能なプログラムにするには、話題性のある独自性をどのように出していったらよいのか、何をしたらよいのかなど、改めて真剣に考えなければならないだろう。なお、今回は文化庁の助成を得ての公演システムであったため、前回までの各場所ごとに責任があった負担が軽くなり、赤字の補填がなされたことで、この企画を継続的に考えていく作業を可能にした意義は大きい。

### 2) 今後の課題点、改善した方が良いところ、展望など

今回公演の地域が増えたことは、コンテンポラリー・ダンスの普及という点から意義深いものであったが、私達と同じように地域によっては観客動員に苦慮した所もあったと聞く。

各地のダンサーの育成と交流、そして観客層の開拓拡大という面から、いろいろな地域で公演する一方で、ダンスの質的向上とダンサー達のダイナミックな交流のために、各地のダンサー達が一堂に会するフェスティバル的なものを併設することも考えてみてはいかがだろうか。この企画で全国のダンサー達が交流することが話題性を獲得するためにも、そうした試みが1つの突破口になるかも知れない。



## 観客アンケート集計結果

総入場者数 85  
回収総数 3

性別・年齢別							
	10代	20代	30代	40代	50代	不明	計
女性	-	1	-	1	-	1	3

地域別		
東京	宮城	大阪
1	1	1

情報の取得 [ ]内詳細	
チラシ	1 [仙台にて]
JCDNWEBサイト	1
出演者より	1



## 内容についての感想...観客アンケートより抜粋

21歳 女性 学生 東京都

東京以外の作品を見て、自分の中でこり固まっていたものがほぐれるような気がしました。すごく刺激になりました!!ありがとうございました!!

女性 大阪市

皆さん、それぞれに素晴らしかったです。見せて頂いてホントによかったです。最初の方、トリハダ立ちました。音楽 声のナマリ 踊り とともに印象的でした。もっと詳しく知りたいです。

クルスタシアはアクションが強くなってより良くなったと思います。速さと機敏さがまして甲殻類ぽかった。2人の中に性別みたいなものができてる感じがあって良かったです!!

42歳 女性 宮城県

丹波さん 練れた作品で楽しみました。まだまだ見たいと思いました。

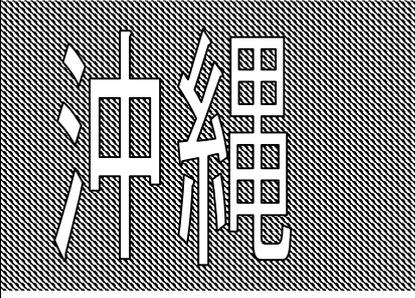
合田さんたち 3人が個性的でおもしろかったです。3人が違う味が出せるというところが良いです。

クルスタシア 実がつまってる感じ、緊張感ある作品でした。こわかった。

山賀さん、おもしろくない!!!中身がない。見え見えでいやでした。

星加さんたち 重心がどっかいてるのか、気持ち良さそうでした。



	<h1>Okinawa</h1>
<h2>会場：パレット市民劇場</h2>	

実施概要			
日時	12月20日(金) 開場 18:30 / 開演 19:00		
会場住所	那覇市久茂地1-1-1(パレットくもじ 9階) TEL 098-869-4880		
チケット料金	前売 一般 2,000円 学生 1,500円 当日 一般 2,500円 学生 2,000円		
出演者	天野 由起子 / 近藤 良平 / 丹野 賢一 / NUMBERING MACHINE DAMAI・RAMEI / 得居 幸、戒田 美由紀		
主催 / 制作	「踊りに行くぜ！！」沖縄公演実行委員会 ステージオフィスぱんく	舞台監督	山城 譲二
		テクニカル ディレクター / 照明	相川 正明
		照明	花城 豊
共催	那覇市	音響	犬養 憲子



## 主催者アンケート

菅野信也 (ステージオフィスぱんく)

### 1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど

沖縄でこのような公演が出来たことに満足しています。特に沖縄の舞踊は型を重視し人間性が置き去りにされる傾向があるので意義深く感じました。自由に発想しそれを訓練された身体で表現する生き生きとした舞台が沖縄でも広がっていくことを願います。そんなすそ野の広がりが伝統芸能の本当の継承と発展につながっていくと思っています。

### 2) 今後の課題点、改善した方が良いところ、展望など

もっと若い観客を動員できたらと思いました。それにはやはり新聞ではなく、ラジオの活用とか、実行委員に学生を参加させるとか工夫が必要だと思った。

公演場所は、もっと小空間でという思いもありますが、那覇市の共催ということで仕方がないかもしれない。又ある程度の客を一回で収容するにはパレット市民劇場でも仕方がないかと思う。

舞台に関しては照明だけでなく公演の内容を理解している舞台監督を連れてきた方が良かったと思います。会館の委託職員の質の問題もありますが、その舞台監督と会館との事前打ち合わせを十分にやった方がいいと思いました。



## 観客アンケート集計結果

総入場者数 195  
回収総数 39

性別・年齢別		10代以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	不明	計
男性		-	-	2	-	1	1	1	3	8
女性		1	1	11	-	-	1	-	1	15
不明		-	-	-	-	-	-	-	16	16
計		1	1	13	0	1	2	1	20	39

地域別			
那覇市	那覇市外県内	福岡	茨城
7	10	1	1

情報の取得 [ ]内詳細	
実行委員会からのご案内	2
インターネット	1
関係者から	13
チラシ	12
その他	12 [友人、他]



## 内容についての感想...観客アンケートより抜粋

19歳 女性 大学生 那覇市	21歳 女性 学生 沖縄市
<p>おもしろい、また見たい、やりたい。もっと宣伝したらいいと思います。知人に聞かなかつたら知らずに終わってましたよう。音楽とか肉体(筋肉)とか良いです。是非また沖縄へ！</p>	<p>初めての沖縄公演ということで、順番が良く構成されていたと思います。コンテンポラリーダンスは初めて見ましたが、興味深く感じました。見て良かった。</p> <p>皆さんの歳が気になりました。あと、三つ編みが気になりました。近藤さん。髪はボウシの内に収めた方が良かったのでは...?!「一般的パパ」を思わせた方がよかったですのでは...?!DAMAI・RAMEIの始め、センターにいた琉舞の方のヘア・スタイルも気になりました。くくらない方がよかったですは?くくるにしても全部すっきりピッチリ上げるとか。</p>
20歳 女性 学生 那覇市	
<p>初めて見させていただいたのですが、非常に良かったです。これだけ違う人々が集まってのダンスを見られたがとってもうれしいし気分が良いです。沖縄はダンス(パフォーマンス)や現代の色々な作品がなかなか花開こうとしていません。どうしても「沖縄」という色を守りつづけその中で作品となって沖縄色だけになってしまっているのが現状です。</p> <p>その中で今日のパレットでの作品などはとても重要になってきます。個人個人のダンサーの方でも沖縄公演はやってほしいです。私の感覚にあったのか最後の方だからリラックスして見ていたのかわからないけど、丹野さんと天野さんの作品は見入りました。他の作品も見たいし、今日は後ろの方で見ていたので今度は前のほう、近くに寄って「姿」を見たいです。ダンスをもっと色々知りたい。と今日は思いました。良いものを見れたと思います。</p>	
22歳 女性 那覇市	23歳 女性 学生 那覇市
<p>行く前から不安と期待を膨らませながら来たのですが、思った以上のものに引き込まれてしまいました。5組それぞれの個性が爆発していて同じ表現方法でここまで違うのかという驚きがありました。</p> <p>自分の内面から滲み出した動きというものを人に披露する今日は良い体験が出来ました。私もとにかく体を動かして表現していこうと思います。ありがとうございました。</p>	<p>沖縄ではあまりこういったダンスの公演がないので久々に刺激のあるステージでした。頻繁にあると嬉しく思います。</p> <p>ただ舞台監督さんの声が客席にまで聞こえてきたのはどうかと思いました。</p>
26歳 男性 会社員	男性
<p>演劇などが好きで良く観るんですが、やっぱり生で観るのが1番です。非日常の世界から活力をもらえる気がします。</p>	<p>良かったと思います。スピリチャルなものをビジュアルで感じる事ができました。ありがとうございます。</p>
男性	未記入
<p>踊りと音は不可分なのかなぁ、と思いました。どの踊り手も、そこに音がありました。それはそれでおもしろいけど、だからこそ、純に肉体だけでの表現をみてみたいと思いました。みてみたいと言ったけど別に視覚を通す必要のないものになったりするのかなぁ。振付、そこに“その場”だから、その即興性ってのはどうあんなのかなぁ、興味あり。いい機会を有難うございます。</p>	<p>演劇ダンスなどに特に興味もなくちょっとした暇つぶしに見せていただいただけなのですが...。「何かを表現しようとしている」と思ったので、それは何だ?とずっと考えながら見てました。でも分かりません。なぜこの音楽?この照明の意味は?と。考えなら見たせいか、パフォーマンスに入り込めず....。</p> <p>考えつづけた末には「そもそも彼らは「表現」しようとしているのか?」と。私には分からなかったけれどこう言う表現手段があり、この表現で何かを感じることができる人もいるようだ、という事だけは分かりました。つまらなかった訳ではありませんので。</p>

50代 男性	
<p>熱演が通じます。</p> <p>1番目は、若い体が自由にみなぎっていました。2番目は沖縄は3者とも同テーマにそって表現したかなと思います。3者の足のさばきに特徴があって興味がありました。もう少しアンバランスがいいのでは、3番目 具象的な場面があったから分かる方ではあった。</p> <p>4番目 よくわからないが切なさ哀愁を感じました。5番目 最初の動きですぐ引き込まれました。音楽と共に幻想的なフシギな雰囲気最後まで見入っていました。手の動きがきれいでした。スピード感あふれて音楽とおもに華やかななかで孤独感焦燥のなかで希望を見出そうとするテーマなのかな、と感じた。</p> <p>プログラムが詠みづらい。演技が分かりにくいのでプログラムぐらいわかりやすくして！</p>	
54歳 女性 陶工 読谷村	67歳 男性 無職 北九州市
<p>はるかにこえてゆく世界をどの作品からも感じた</p> <p>おどる事で伝える 伝わる 表現する喜びを共有した時間</p> <p>森は自分のはだの延長にある</p>	<p>出演者は相当訓練されている様に思います。この種のアートにストーリーが分かれば尚良いと思います。</p>
未記入	未記入
<p>初めてコンテンポラリーダンスを見て、良くわからないと思った。</p> <p>沖縄とジャワのコラボレーションは、身近にある琉舞が祈りに通じていると感じられて良かった。ポロポロの服を着た人の舞台は息苦しくて見るのがつらかった。でも、伝えるものがないということで、私は一体何を感じていたのだろう …。</p>	<p>私は特別に何かを創っているわけでもなく、今回も友人に誘われて見に来ましたが、出演者の方々の強いエネルギーが感じられて感動しました。素人な感想申し訳ありませんが、正直、そのように感じました。</p>
未記入	
<p>去年の丹野さんのSSWを観て丹野氏を観に来ました。やる場所が、ここには向いていないと思いました。時間も、もっと遅くて長くてその方が違ったものが観れた気もします。次回はもっとディープな場所で期待。沖縄いいところあります。</p> <p>始めの二組には心が動かなかったので別に。近藤氏おかし。通りで見たい。丹野氏は、もう何がいかわからんけど本当にいい。せっかくなら去年と別のネタが観たかった。タク男再演希望。天野氏はものすごく気持ち悪くて最高でした。スカート落してゆれた時、もう気持ち悪くて良くて、もとい、ずっとみていたいくらいでした。うまく言えない。ゆるる。もうわけがわかりません。</p>	
未記入	
<p>私も琉球舞踊を習っているのですが、それを生かしたダンスで、別の体表現ができるんだな、と感じました。またインドネシアと琉球舞踊の曲調が似ているという事を初めて聞き、インドネシアと沖縄のつながりのようなものを感じました。</p> <p>初めてこのようなものを見て、今までとは違う感覚になりました。</p>	

# 天野 由起子〔東京〕

## プロフィール

現在、山田せつ子主宰「枇杷系(BIWAKEI)」のメンバー。中学で新体操を通じ身体表現に興味を持ち、バンド活動やパフォーマンスユニット等で音楽と身体による表現を開始する。

その後コンテンポラリーダンスと出会い、枇杷系のメンバーになる。'00年よりソロ作品を発表。'01年横浜STスポット「ラボ20 9」にてラボアワード受賞。「ネクスト・ネクスト2」(森下スタジオ)出演。'02年第1回TORIIAWARD大賞受賞。



作品タイトル:「花は火の玉」 振付・ダンス:天野 由起子  
作品メッセージ:ハナはウズマキのヒノタマ畑をヒソリとサマヨイツづけマス。

**踊りに行くぜ！！ 出演は 2回目 出演会場/回数は 松山2回/仙台2回/沖縄1回 計5回上演**

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか？

作品の軸は変わりませんでした。細かい部分で毎回違った感じ方が出来た事は、再演をするにあたって刺激的なことでした。再演するコツのようなものを自分なりに見つけだし楽しむ作業ができて良かったと思います。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

作品の構成や、身体の使い方等、刺激になることが多くリハーサル等は極力見るようにしていました。普段はなかなか接することのない出演者の方達とお話ができるのも貴重でした。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか？

自分のホームグラウンドだけではなく初めての土地で上演するというのは、観客にも先入観なしに観てもらえて自由な感想、意見が聞けて面白かったです。

その土地土地のスタッフの方とも接する事が出来、皆さん情熱をもって取り組んでおられるのを見るととても励みになります。特に地元の学生さん達の感想はとてもストレートでいいなあと感じました。

踊りに行くぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

今のところは具体化していませんが、何かに繋がるような気がしています。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

場所によって舞台監督さんの仕事の仕方がかなり違うなあと感じました。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

今回2回目の参加でしたが、3箇所(松山、仙台、那覇)どの会場も地元のスタッフの方々があたたかく迎えてくれて、いい公演になったと思います。

前回と比べてスムーズだった点は、照明スタッフが毎回同じだったので、照明の直しに費やす時間がほとんどとれなかったのは非常にやりやすかったです。

今回の初回の松山公演はカンパニー新作公演の直前だったこともあり、やはり精神的にハードな面もありました。たぶん公演活動に慣れてくれば、もう少し楽にこなせるのかもかもしれません。

あと、今年になって去年より少し余裕が出てきたのか、空き時間を有効に使えるようになった気がします。その集中する時間が作品を深めるのに有意義な時間だったなと振り返ると思い出します。また他の方の作品を観て、次ぎの作品のヒントをもらったりできて創作に集中できるいい時間でした。

地方公演というのは個人ではなかなか実現させるのが難しいので、これからも「踊りに行くぜ！」の活動を広げていって欲しいなあと思います。

# 伊藤 郁女〔東京〕

## プロフィール

‘79年生まれ。5歳からクラシックバレエを高木俊徳に師事。18歳で振付けをはじめ、ニューヨーク州立大学サニーパーチェスダンス科で、グラハム、カニングハム、リモン、ホ・トンテックなどを学ぶ。同時にニューヨーク市内、パーチェス、メイン州などで多くの作品に出演、振付けを手がける。

’02年2月、横浜ダンスコレクション「ソロ&デュオ」にて財団法人横浜市文化振興財団賞を受賞。NHK「夢をかなえるために」に出演。

作品タイトル 「The Broken Heart」

振付・ダンス：伊藤郁女

作品メッセージ

この作品は、失恋をした時の感情の変化を、その時に起こる極度な心臓の収縮をヒントに表現している。



**踊りに行くぜ！！ 出演は 初めて 出演会場/回数は 松山2回/大阪2回 計4回上演**

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか？

スタッフの人達、特に水野さん、佐東さんの暖かく、厳しいご意見がとても勉強になりました。人に何を言われても、客観的に解釈できる器量が少しかつたように思います。ただ、いろいろなところを変えたくても、続いて公演があったので、なかなか思うように自分の作品をアレンジできなかったのが残念です。今度は、もう少し、公演と公演の間に期間があっても良いのではと思います。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

すぐ刺激を受け、どんな作品からも自分の作品に取り入れることをしてみたいものが見つかったのではと思います。同じ東京からの人でも、普段一緒にやることのない人との共演も面白かったです。新しい作品をもっと作りたいと思いました。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか？

土地というよりも、その場所の人が違う雰囲気をもっていること、会場のスタッフの接し方などから、違う空気を感じました。

踊りにいくぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

とにかく自分の作品をもっと時間、公演を重ねて発展していこうということと、新しい作品を作ろうという意欲です。あと、水野さんと佐東さんを含め、これからの自分にとってとても大事な人たちに会えたことが発見でした。あとは、気軽にお客さんや、評論家の意見を聞けるようになったことと、ひどいことを言われても、客観的にそのことを理解しようとして、自分の作品の発展につなげていこうという意識が働いたこと。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

自分が巡業している大道芸人のような感じでした。いろんな人からの意見をもとに、テクも変わっていったりして、何度も違う場所でやることの特権がありました。

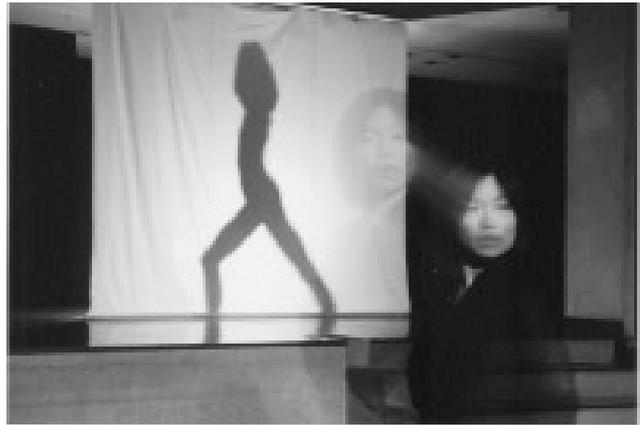
その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

本当に、このプログラムに参加できたことを嬉しく思います。とくに、水野さん、佐東さんには本当に本当にお世話になり、自分の作品がまだ未熟であることがありありとわかった日々でした。そうやって言ってくれる人が、普段東京で作品発表をしている中では、なかなかいないし、自分の作品を毎回発表する際の、厳しさが、欠けていたことを知りました。とにかく私は、とても充実した五日間であったと思います。

また、これから作品を作っていく際に参考になったのは、他の人たちの作品に対する、皆さんの意見を聞くことでもありました。とにかく、私は、たたかれたほうが頑張るタイプなので、性格的にちょうど良い空間にいらしていただけたと思います。これでお金ももらってしまって、本当にこんなことが毎日したいな、といった感じです。あと、大阪、松山のステージの広さ、たとえば松山は奥行きが広いとか、大阪はフェスティバルゲートなので、ジェットコースターと、大阪プロレスの音が聞こえるなど、事前にその場所の特徴をお知らせしていただけたら、それなりにもっと面白く使えたのではと思います。とにかく、今回は自分が少し成長することができて、感謝しています。今後もよろしくおねがいいたします。

# 北村 成美〔大阪〕

プロフィール:6才よりバレエを始める。  
'91年渡英。Laban Centerにて学ぶ。'93年-'99年ダンスグループ「構造計算志向」を主宰。  
'00年「生きる喜びと痛みを謳歌するたくましいダンス」をモットーにソロ活動開始。「i.d.」を発表し、年間30ステージ上演を敢行。関西を拠点に東京、横浜、韓国で公演を行う他、ダンスマラソン、Dance at Home など身体を張った活動を展開している。  
'02年「第1回TORII AWARD」においてフランス賞、オーディエンス賞を受賞。



タイトル「ラベンダー」 振付・ダンス:北村成美

作品メッセージ:  
雲ひとつない青い空の下。ラベンダーの花を摘んだ。  
みつばちに刺された。風に吹かれて花が揺れる。  
花に吹かれて私が揺れる。

**踊りに行くぜ！！ 出演は 2回目 出演会場/回数は 横浜2回/福岡1回/大阪2回 計5回上演**

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか？

回を重ねることだけではなく、様々な土地のお客さんに観て頂くことで、より幅広く感想を聞かせてもらうことが出来、作品そのものを分厚くすることが出来ました。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

方法やスタイルは違って、どの人も真摯にお客さんに向かっておられる姿に闘争本能を掻き立てられました。自分が訪れたことのない地域の方と出会えたことで、その土地の状況を知ることが出来て面白かったです。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか？

今回初めて福岡で踊らせてもらったのですが、現地のお客さんのノリの良さに迎えられ、本当に楽しんで踊ることが出来、このお客さんのために倒れるまで踊った、と思いながら踊れたことが貴重な体験となりました。

踊りにいくぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

期日は未定ですが、九州方面でのワークショップと自身の企画、ダンスアットホーム(御家庭の居間での公演)をしてほしいという要望を頂きました。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

いつも自分が利用する会場もそうなのですが、お客さんと会わないようにトイレに行くことを工夫しました。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

第1回のツアー以来、2度目の参加です。前回は地元関西以外で初めて公演する機会を頂き(横浜STスポット)、ツアー参加を契機に様々な舞台に立たせてもらえるようになり、確実に活動の幅を広げさせて頂きました。前回上演させて頂いた作品「i.d.」は「横浜ソロデュオコンペティション」に参加、「第1回トリアワード」においてフランス賞、オーディエンス賞を受賞しました。それ以来、前回に次ぐ新作を発表することが出来ず思い悩んでいたのですが、今回参加させて頂く中で、自分にしか出来ない踊りは何かということを考え、それを作品にする作業が出来ました。

私個人として大きく意識が変わったのは、自称「なにわのコリオグラファーしげやん」として、使命と責任をもって世の中に立つことを考えるようになったことです。(まだまだですが。)そうした観点から、ツアーに臨むにあたっての作品の調整、現地スタッフとの事前打ち合わせ、自己管理など、それらに最善を尽くすことが全てお客さんに繋がっていることを肝に命じなければと思います。(これは私自身に対する反省です。)

関西出演メンバーは、作品の見せ合いとダメだし日を設けて頂きました。これは他の出演者の方々がどんな風に作品を作っているのかが垣間見え、とても良かったです。こうしたア・ティスト同士の交流やワークインプロGRESSなどを今後も続けてもらいたいです。

# CRUSTACEA (浜谷由美子、梶本雅子) 【大阪】

## プロフィール

'95年関東・関西の4人の女性ダンサーでパフォーマンス・ユニットとして結成。東・西を往復する遠距離恋愛的活動で、東京・横浜・大阪にて作品を発表。

'99年よりダンスカンパニーとして大阪を拠点に活動する。目前の人や物事に真摯に向き合うことを前提に、それらの力によって生まれる関係性、可能性を追求。スピード感と人間味溢れるムーブメントで、観客の五感を刺激する。



作品タイトル: 「prologue of Rassel」

振付: 浜谷由美子 出演者: 梶本雅子・浜谷由美子

作品メッセージ: 血統や価値観、慣習等、本来の自分が、状況や他人等の外的要因で、改めて気づかされることがある。その“気づき”は従来の概念を壊し、次のIDを築くことでもある。

**踊りに行くぜ!! 出演は 初めて 出演会場/回数は 札幌2回/富山2回/東京2回 計6回上演**

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか？

大きな変化(編曲・衣裳・180度構成が変わるなど)はありませんでしたが、土地土地のお客さんの意見によって、自身が作品に対してや踊る事を考えさせられることが多く、回を重ねるごとに作品に対しての自分なりの方向性が固まってきた為、作品は毎回変化していきました。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

ホテルが違う・入り時間が違うなど決められた事が多くなかったので、逆に良い状態で他の出演者と出会うことが出来たので、沢山話しが出来たし色々な意見を言い合う事が出来ました。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか？

個人企画として地方に行ける経済状況ではないので、地方で観て頂けた事は嬉しかったし、良い経験になりました。ただ、3箇所とも満員ではなかったことと、若い観客・アーティストがそんなに客席を占めていなかったのも、残念だと思いました。

踊りにいくぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

発展した事はありませんが、地方公演もしてみたいと思いました。(ただ、あまりホール制作の方とお話できなかったのも、希望です)東京は以前にお世話になっていた方たちでしたので、「是非また」ということを言って頂きました。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

私はテクニカルも創作の仕事だと思っています。普段はテクニカルスタッフと少なくとも1ヶ月はかけて話し合いを行うので、いきなりといった場合には当日に決め込んでいく方法をなるべくさげ、安全策をとってしまいます。その結果、分かっていただけいまま舞台を行わなくてはいけない事もありました。それは非常に残念な事ではあるし、今後そういった場合での演目自体を考えていかななくてはならないと痛感しました。会場も仕込み図などだけでは分かり得ない部分があったので、地方で公演を行う時に直接何でも聞ける人が居れば良いなと思いました。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

このような企画、是非また参加したいと思います。自身としてはテクニカルの部分に弱いので、時間の無い中でどう伝えられるのかが毎回の心配事でした。また、自分も踊り手なので、テクニカルなことを伝えて、でも踊っておきたいという勝手な希望があり、出来る事ならもう少し時間の余裕があるといいなと思いました。今回、とても嬉しかった事は出演者同士がお互いの作品について意見し合いアドバイスを頂けたことです。全員と込み入った話が出来た訳ではありませんが、それぞれの持つ方法論からのアドバイスは思いもつかなかったことを気付かされたり再確認したりととても勉強になりました。

今回、たまたま3箇所とも同じグループもいて、回を重ねるごとに変化していく様を見せていただき、お互い「変わったよね」「どうやって変えていったの?」という話が出来た事が刺激になりました。これは出演者としての感想(希望)ですが、その場その場で初めて出会うことも嬉しく、楽しい事ではあります。何箇所か一緒に踊るグループもいれば勉強になるなと思いました。ありがとうございました。

# 合田 緑 + 三好 絵美 + 戒田 美由紀〔松山〕

## プロフィール

合田 緑 : ここで転換 眼力系

三好 絵美 : 高音 3D さえずり系

戒田美由紀 : 歩く珍味 右脳系

1999年より松山を拠点とするyummy danceのメンバーとして共に踊る。

アマンダ・ミラーとの共同ワークを経て、多様な価値観が存在するという事を知り、ここで一発やってみようと3人立ち上がりました。



作品タイトル: Locker Room

振付・ダンス: 三好絵美、合田緑、戒田美由紀

作品メッセージ: 身体の中で頭を休め、眠りに包まれたSpiral dragon 青いシナプスの床で 目覚めの吐息をする

踊りに行くぜ!! 出演は初めて 出演会場/回数は 福岡1回/松山2回/東京2回 計5回

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか？

**合田:**6月の選考会以来、3場所を巡回する中で、構成も、イメージも変化したと思います。客観的にみても、少しは変化したと思うのですが・・・、特に自分たちの中では、(主観的な部分で)、ずいぶん変化したなと感じています。

今回の巡回は、私たちにとっては、自分たちの創った作品を、外側から見直す、再考察することにトライする作業と、実際舞台上に立って今現在の状況(過程)をさらすという経験が、作品を見直し、それまで自分たちの中だけで膨らんだ作品のイメージや作品全体の流れが、何のために存在するのか?と改めて自らに問いただす機会になりました。

一回創ったものを壊して、創って壊して、本当に見せたいものを残していく、作品を深く掘り下げるということ、今までちゃんとやることがなかったのだということが、その作業・実践(公演)を経験して、はじめてわかりました。きっと、経験しなければ気付かなかったと今は思います。

具体的に言うと、作品が生まれた当初は、作り手である自分たちの中で個々に膨らんだイメージがソロの部分で個別にあって、(そのイメージもおぼろげにしか出せていませんでしたが)

やがて、いろいろあって、最終的によくよく改めて捉えなおしていくと、3人でやっていると思っていたことが、3人で本当にクロスしていないことに気が付き、何で3人でやってるのか?というところにぶちあたり、そのことに関して、ぶつかってみようとしてトライしました。その結果、いくつかの場面が少しずつ変わっていき、一方で最初からずっと残っていくものもありました。以前に比べればはっきりとできる部分が少しだけ増えてきたように思います。きちんと仕組んだところ、即興の部分、なんとなく流れるだけでなく自分たちの片すみでチョイスされながら混じりあうことがありました。でもまだきっと部分的なレベルかもしれません。

以前に比べ、深くなったと感じるところもありますが、いまだにはっきりとした全体的な答えが見つかりません。それはまだ過程なのだからだと思います。それとも、終着地自体がないものかもしれません。今後の大きな宿題です。

**三好:**再演する事で、作品を何度も見つめ直し再構築する良い機会だった。やはり、一度舞台に上げてみないと分からない事も、まだまだ課題は残りますが、ひとつの舞台で発見した事を次の舞台で生かして客観的に見てみて、一回一回変化していく事ができました。

**戒田:**(P.79に掲載)

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

**合田:**巡回先で出会ったさまざまなアーティストの方は、それぞれ自分の表現を追及しようとしていて、舞台を迎える過程ごと作品を見ることができたのは、本当に大きな刺激でした。この人はこんな方法で、またあの人はこんな方法で...。作品を見て驚きました。

また、創作のこととか、同じような悩みや好奇心や疑問を持って一緒に話をして共感したり、自分にはない考えをもっていたり。

そして、ダンスで舞台上に立ちながら作品を作り、新しい価値観を創ることにトライしながら生きていくことはどういうことか深く考えさせられました。生活のこと、社会のこと。上手に言うことができませんが、本当に厳しく大変なことですが、みんな望んでここにいることが共通のような気がしました。そして、自分も今現在はそれを選択しているなあ...と改めて感じました。

いろいろな方といろいろな話をしましたが、特に福岡で一緒だった北村さんと話したことが忘れられません。(北村さんは、どうやって今まで踊ってきたか話してくれたんですが)こんなすごい生き方をしている人がいるのだと思いました。それで、まだやってもいいのにこんな地点でよくよしている自分がばっかみたいに思えてきました。刺激も勇気も好奇心も満載でした。

**三好:**他のアーティストの方がどのように作品と向き合っているかや、独自の発想などが見えてとても刺激になった。また、作品について、いろんな意見交換ができて、とても勉強になった。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか？

**合田:** 福岡は…。実は、今だから言えるんですけど、前日一睡もできませんでした。そのくらい直前までものすごく緊張しました。本番はそんなこと忘れて思い切りやりました。…つもりでしたが、作品が不明確だと自分たちで痛感していたし、3人のその弱さやあいまいさがパフォーマンスの中に前面にでてしまったと思います。あのとき言われたように、作品がどうこうというよりも、舞台に立つ人として、だめだったと思います。帰って、ほんと、へこみました。でも、福岡で学んだことは本当に大きかったです。その後の作品の成長は小さいものかわかりませんが、あのときの自分たちの作品の未熟さに対する悔しさは、確実にバネになりました。観客の方は暖かかったです。

福岡はパフォーマンスの場所(立地)がとにかく魅力的でした。松山よりぜんぜん都会だし、好奇心旺盛な人がたくさんいそうだし。ホールが街の中心部の情報発信地！と実感できる、人の集まる場所にあり、あれはうらやましいなと思いました。多くの人でごった返すショッピングモール、フロア - あちこちで行われている企画展示やイベント、これなら若い人や、ダンス以外のいろんな人が気軽に入って来れそう…な感じでしたが、実際はダンス関係者かな～と思われる方が大部分だという印象を持ちました。なので、あれー？とギャップを感じました。観客層のこと。そこは、やはり、松山と似た感じだと思っただし、松山に限らず全国的に同じような状況なんだな～と思いました。

**三好:** 誰も知らない初めての土地でする事は、やっぱりとても緊張しました。お客さんはもちろんですが、ホールのスタッフの方々とのコミュニケーションも、とても大事だと思いました。

踊りにいくぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

**合田:** 舞台の仕事として具体的なものはありません。でも、関心をいくらか持っていたので今後がんばります。

**三好:** 現段階では、特にありません。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

**合田:** 出演者がダンサーの立場だけに没頭できる環境にあること。というのは、松山で公演を打つ際、いつも仕込から、会場整備、テクニカルも含めて自分たちが踊りながら裏でもサポートをやって…という公演スタイルがほとんどだからです。本番時間まで、舞台にたつことだけに標準を合わせ、身体を作っていけることの喜び、これを自分が住んでいるところで行えるようになるのは、なかなか難しいことです。作品が認められて、いろんなサポートが受けられるようになると比例して、そういう立場が増えるんでしょうか。もちろんそれもあると思うけど、東京などに行くと、そういうパフォーマンススペースやシステム自体が松山よりかははるかにあり、やはりちがうなと思いました。あと、舞台上で踊ることが、仕事として成立するという。ツアーで日当や、交通費を頂いたのは生まれてはじめてです。衝撃的です。これらを含め、いろいろなことを考えました。

**三好:** 限られた時間の中で自分たちのやりたい事を、初めて出会うスタッフの方に、的確に伝えていく事がなかなかできなかった…。また、会場も場所によっていろんな特徴があったので、作品にもその違いが影響して、変化していった気がする。いろんな大きさのホールで、同じ作品を上演する事ができたので、実験的で面白い経験でした。雰囲気は、いろんなアーティストの方と交流できて、普段よりももちろんずっと刺激的でした。特に、ずっと松山で活動している私たちにとっては…。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

**合田:** それまでの欄にいろいろとすでに書いてしまったんですが、今回の参加は、自分たちにとってかけがえのない経験でした。もまれるということはどういうことか、新しい価値観を提示するということがどんなに大変なことか、いろんな人がいる価値観をもって混在する環境とはどういうことか、日本で作品を踊り生活していくとはどういうことか、松山でそれを続けるということはどういうことか、必然性ってなにか、ダンス(自分が踊ること)は自分以外の人にどんな意味を持たせるのか、批評をうけるとはどういうことか、東京ってどういふところか、…いろいろと答えがでないものも多いですが、これらの疑問にぶち当たる状況、そして考えるきっかけとしての実感がすごくありました。うまく表現することができませんが、この‘実感’ってすごいと思うんです。

踊りに行くぜは日本各地にアーティストを紹介していくことであると同時に、アーティストが自分が活動している場所と開催地のダンスの環境を、それを創ってる社会と人を、のぞいて、日本のいろんなシーンを肌で感じて実感して、ギャップや多様な価値観にぶち当たって揺さぶられるすごい機会ですね。この経験は、いつも決まったエリアで表現を重ねる、(とくに松山みたいな小さい社会で)だけではけて経験できないし、もし、知り合いとか、何かのつながりで、呼ばれて県外で公演を行える経験とも、またぜんぜん違うと思います。とくに、田舎からの参加で、余計こう思うのかもしれませんが、また、開催地だけというのではなく、むしろ、一緒に舞台を経験する共演者や、いろいろな‘打てば返してくれる’方がいてくださること=感想・アドバイスをいただけるという点や、そういった役から現地スタッフとの連携や細かいお世話まで全体をプロデュースするJCDNがあるからだと思います。

ダンスには、いろいろな価値観があり、見る側にもいろいろな価値観がもっとあるはずで、可能性も無限で、いろんな意見や価値観のごった煮の世界で、そのなかでもいいものはやはりきらりと光り、残っていく。松山はまだまだいろんな意味で、いろいろな価値観を見ていないし、知りません。踊る人も、観る人も。でも、松山で今後巡演が続けられる限り、毎年毎年、変わって広がっていく予感がします。それが今後楽しみでなりません。私たちよりも若い世代の人たちが、もっといろんな価値観のなかにいれるように。だから、ぜひ、続けてください！自分たちも、ほんとに未熟ですが、あきらめずにもう少しがんばってみます。

**三好:** 正直言って、作品づくりがこんなに大変だとは思っていませんでした…。ほんとに、落ち込んで、目が内側向くくらい考え悩んでいましたが、最終的には作品を楽しむ事ができて、本当に良かったと思います。巡回公演を終えて感じた事は、いろんな方が様々な見方から作品のアドバイスをくださるけれど、一番大事なことは自分たちがどうしたいか？という事で、それをしっかり持っていないと成立しないという当たり前の事。踊りに行くぜは終わったけれども、これからも作品を再び作り続けていきたいと思っています。また、松山にいらすと、お金を頂いて作品を上演するというプロ意識というのは皆無に近いことなので、プロの世界のシビアなものも初めて経験しました。未熟な私たちを叱咤激励して下さった佐東さん・水野さん、本当にありがとうございました。今度お会いするときには、少しは成長しているように頑張ります！これからも”踊りに行くぜ”続けてください！よろしくお祈りします！

# 小浜 正寛(ボクデス)〔東京〕

プロフィール:93年より劇作家・宮沢章夫主宰「遊園地再生事業団」公演に俳優として定期的に出演。

'00年よりニプロール作品出演。'01年、「ボクデス」名義で作品制作開始。横浜・STスポットで上演した『フライング・ソーサーマン』で「ラボアワード」「麒麟アートアワード2001・奨励賞」受賞。「芸術道場GP」を経て、テレビ東京系「たけしの誰でもピカソ」出演。  
<http://www6.plala.or.jp/BOKUDEATH>

作品タイトル:「BOKUDEX～チョイス・オブ・ボクデス」  
構成・演出・出演 /小浜正寛(ボクデス)  
アニメーション /NOZANSKI

作品メッセージ:  
カラダ X アニメ X モノ ÷ 3 のボクデス・ワールド。  
でも、ほんとうは割り切れない世界。  
世界の割り切り方についての試み。



**踊りに行くぜ！！ 出演は 初めて 出演会場/回数は 札幌2回/名古屋2回/仙台2回 計6回上演**

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか？

作品の不出来は、観客がジャッジするという前提を置いて、言わせてもらえば、回数を重ねるごとに、作品自体に「うねり(グルーヴ)」が出てきた感じがします。これは他者の前でやる、ということを重ねたから出来たことかもしれない。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

特にはないです、というのが本音ですが、仙台公演で一緒だった天野由起子作品には個人的にいつも刺激をうけます。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか？

最初の札幌初日では少しよそ向きのようなことになってしまいましたが、「東京や横浜でやってことを、変えずにそのままやろう」と思い直し、その後の公演に臨みました。それが功を奏した気がします。つまり、私の作品の性質上、地域性はあまり関係ないのかも、と思いました。

踊りにいくぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

特にはないです。(アマンダさんの件くらいです。)

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

普段の公演では、ビデオオペレーターが稽古の段階から付き合ってくれてました。今回は各地のスタッフに頼むことになり不安だったのですが、こちらの予想以上に前向きにやってもらえ、まったく問題なかったです。スタッフの方は、大変だったと思いますが一人で回れるんだと改めて知りました。

また、水野さん、佐東さんから上演前にアドバイスをもらえるということも普段の公演ではなく、それも大変、有意義だったことです。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

仙台公演楽日は忘れることの出来ない感覚を覚えた日です。自分にとっても、ツアー最終日、いい形で締められたのではないかと考えてます。仙台のスタッフ、お客さんの反響に、素直に嬉しかったです。相互関係なのかもしれませんが、喜んでくれる人がいて、初めてアーティストは存在できるということを改めて、思い知りました。観客とアーティストの幸福な関係が成立した時間だったと思います。また、打ち上げの席で、実行委員長の阿部氏から、「ありがとう。ありがとう。あんな凄いものを見せてくれて。(地元の方を指して)こいつら、みんな悔しがつてんだよ。」とお礼を言われました。

しかし、お礼を言うのはむしろ、こっちの方で。東京から地方に来た、という意識はあまりなく、「小浜・個人」としてこの土地に来たわけですが、「踊りに行くぜ！！」に参加して自作品を上演する機会をもらえたことを良かったと思った瞬間でした。大上段に構えるつもりは毛頭ありません。互いが切磋琢磨していける関係ができればと思います。

## 近藤 良平〔東京〕

### プロフィール

コンドルズ主宰。'96年結成以来日本、アジア、アメリカ各地にて情熱的に公演を続ける。踊りに行くぜVol.1 Vol.2では、野和田恵里花とともに巡演に参加。東京を代表するヒップでハートフルな人物。



作品タイトル「パパ・ユーア クレイジー」 振付・ダンス:近藤良平  
作品メッセージ これは、次元を越えた どこにでもいそうな男の渾身のソロ作品です

**踊りに行くぜ！！ 出演は 3回目 出演会場/回数は 松山2回/沖縄1回 計3回上演**

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか？

いつもそうだが本番になるたびに新しいきもちなのです 作品に変化というより集中度の変化でしょう

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

日本はひろいなあということ

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか？

今回はたまたま西あるいは南の方での上演だったので のりがよかったと思う でももっと盛り上がるかな。

踊りに行くぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

踊りに行くぜにかぎらず狭い踊りの世界、を打開してお互いに影響をあたえられれば と思う  
(日本の隅々、海外も含め)

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

それぞれの主宰地によって全然ちがうかな 比べられない。コンテンポラリー浸透度とお客様興味度のバランスはどのように違いが生まれるのだろうか、 ちと興味がある。あと会場はもっと遊べる場所がありそうという感じ。とくに地方のほうが。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

今年で3回目である。1,2回目は野和田恵里花とともに少し楽しげなデュエットダンス。この作品は個人的にも気に入っていて彼女が復活したらまたやろうと思っている。

今回はたまたま恵里花さんの妊娠と家内の妊娠が続くというのもあってパパと子というおめでたダンスを創ってみた。ちとコンドルズで忙しいので久々のソロで楽しく出来た。あと立ち上げの頃から佐東さんと願っていた沖縄公演に参加出来たことは嬉しかった。

全般的には開催地が増え佐東さんと水野さんが忙しすぎ飲み過ぎかなと。JCDNのサポート体制がもっと出来ればもっといろいろ動くかなとも思う。若者達がんばろう。それから作品は、時代のせいかな重いものが増えたなあ。もう少しアラカルトだと個人的には楽しいなあ。作品あるいはその人なりが地方に突入突撃するのだからなにをしたいのか今一度心して本番を向かいたいなとまじめな事も考えてみた。

コンテンポラリーなんてとにかくまねできない個性をもちたい。若者達がんばろう。2003年もまた新たな気持ちで参加したいとおもう。輪が広がる事を願って。

# 砂連尾 理 + 寺田 みさこ [京都・大阪]

## プロフィール:

砂連尾理は学生時代よりダンス・演劇を、寺田みさこは幼少よりバレエを学ぶ。'91年より共同で活動を開始。自己と他者という人間関係の最小単位である「デュオ」という形態の中で人間の様々な関係性を模索した作品作りをしている。

「踊りに行くぜ!!!」には昨年に続き参加。

第1回 TORII AWARD 大賞受賞。

トヨタコレオグラフィーアワード2002「次代を担う振付家賞」「オーディエンス賞」受賞。

作品タイトル:「ユラフ」

振付、ダンス:砂連尾 理 + 寺田 みさこ

作品メッセージ: "揺らふ・古語で「躊躇する、とどまる」などの意味を持つ。何も無い、あまり変化のない日常の繰り返しに、踏みとどまることを選択する。"



**踊りに行くぜ!!! 出演は 2回目 出演会場/回数は 前橋2回/広島2回 計4回上演**

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか？

去年も感じた事ですが単純に回数を増やす事で作品に対しより客観的な目を養う事が出来ました。それに伴いダンスの技術、作品の構成などクオリティーを上げる事に繋がったと思います。そして昨年との大きな違いは照明の相川さんとの関係性が深まったのでより創造的な関係で仕事させてもらう事が出来、2ヶ所目の広島では私達だけでは考えられなかった解釈を提示してもらうなど大きな進展でした。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

手塚さん、丹野さん、松本さんらの踊る場に対しての戦略、演出は今後の参考になりました。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか？

地元関西や東京では味わえないお客のパフォーマンスに対する熱心さ、コンテンポラリーダンスに対する興味とそれと同時にまだまだ戸惑い感を感じました。個人的には私達のダンスがコンテンポラリーを初めてみる人にもでも圧倒できる実力を身につけたい、つけねばと思いました。

踊りに行くぜ!!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

広島でのワークショップ開催が実現しました。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

前橋での公演は重要文化財での公演だったので普段のプレセミアムの舞台では経験できない独特な雰囲気が身体、作品に影響をしているのを感じました。ただこちらの見通しの甘さから、その場を生かす演出なり踊り方等、未準備な事が多かった事は今後の課題として残りました。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

馴染みのある土地、また馴染みのある観客から離れて、多くの人々に私達のダンスを見せることが出来たのは、自らのダンスを客観的に捉えることが出来、また晒されることの厳しさを感じることが出来るものでした。そして、自主公演では不可能な上演回数を重ねることが出来たのも、ダンスの錬度を高める上でとても有効だったと思います。また、多くのアーティストや地元のスタッフの方たちと交流できたことが、何より刺激的なものでした。

希望としては、照明スタッフと同様に、音響スタッフも統一されていれば、私たちのようなワークインプログレスで作品を作り上げていくカンパニーにとっては、本企画にある一定期間をかけて参加する作品的意義も更に増していく気がしました。しかし時間をかけたコミュニケーションだけが全てではないとも思いますので、こういった企画を機会にその土地のスタッフと短期間で作品を作り上げていく作業というものも取り組んでいきたいとも思います。

また本企画が公演を行うだけでなくワークショップ(一部地域では開催されていますが)や地元の方たちとの作品作り「発展し”教えに来たぜ”や”一緒に創りに来たぜ”みたいになるとよりダイナミックな展開になるな」と思いました。

# 丹波 直美〔札幌〕

## プロフィール

'82年、クラシックバレエを学ぶ。'83年頃から、ジャズダンスやモダンダンスの舞台に立つ。  
'93年～'97年、年に一度の割合でNewYorkへ短期留学を繰り返す。  
'95～'97年、東京にて木佐貫邦子に学ぶ。  
'00年 札幌において、木佐貫邦子振付「インディアンサマー」(グループダンス)を踊る。  
'01年 木佐貫邦子 + neo「ダンスの場所Vol.5」でソロを踊る。



作品タイトル:「また会おうね」 振付・ダンス:丹波直美  
作品メッセージ:この動きは、私の言葉

## 踊りに行くぜ!! 出演は初めて 出演会場/回数は 札幌2回/東京2回 計4回上演

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか?

何度も考え踊りをつくり直す時間と踊るチャンスに恵まれて少しずつ納得のいく作品に近づいたと思います。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか?

若い方のエネルギー・アイデアには心が熱くなりました。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか?

心をまっ白にして踊ることができました。

踊りにいくぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか?

初めての参加なので、これからどのように発展するのか楽しみです。

普段公演をする際と何か違いはありましたか?

いつも同じ人と仕事をしていましたから、今回のスタッフさんにとっても感謝しています。このようにわかりづらい人間を相手にして下さりとてもありがたいです。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

佐東さん、水野さん、清水さんにチャンスをいただき、そしてまた作品を見たいと言っていたことがとても大きな収穫でした。(心からうれしい)

でも、若い人達の中で踊るのはとても勇気のいることでした。若い人達がこれからも続けて踊ってってくれることを願います。少しずつですが、人間味のある丹波のダンスを発見していきます。今後を見ていただけたらうれしいです。

# 丹野賢一 / NUMBERING MACHINE (東京)

## プロフィール

84年、田中浜主宰「舞塾」に参加。翌年より独自の活動を開始。当初は月一回以上の活動を課し、小劇場での公演、野外やハンバーガー店での突発的乱入公演、イベント列車内での裸体公演等で物議をかます。92年以降は、会場を作り替えるほどの大掛かりな舞台装置の中でのソロ作品の提出を続ける。00年からは一切の装置を排除し、衣装とメイクによる様々なパンキッシュなキャラクターに扮しての、ソロワークも開始。

作品タイトル:「012 -RAG」

構成・出演 / 丹野賢一 音 / ガスカンク、松本じろ

## 作品メッセージ

裂けた傷、壁への激突、増幅された呼吸音、這い回る網シャツ男、ピンクと黒の水玉模様、ポロポロの衣服等々…。パンキッシュな異形のキャラクター達。



踊りに行くぜ！！ 出演は2回目 出演会場/回数は 前橋2回/沖縄1回 計3回上演

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか？

同じ作品での巡回公演はここ数年、「踊りに行くぜ！！」への参加以外でも多く実行している形式ですので、「踊りに行くぜ！！」での経験以外を含めた話となる部分も多くなる事をまずは御了解ください。作品の変化はあるなしを問われれば、「ある」と答えます。それは、大別すると、

- 1、会場やスタッフ等の違いからの行う構成の微調整によるもの
- 2、上演を重ねる事での発見・熟練によるものかと思えます。

1に関しては、野外であった前橋や客席部分からの登場を選択した那覇など積極的に思考を巡らせての場合と、条件による制限で止むを得ずのケースに更に分かれます。ただ、後者の事態が新たな意外な発見に繋がる場合はあり、制限がある場合は「極力」自分の思考回路をそちら側に転換させようと心掛けます。

2にある「発見・熟練」も確かにありますし、それは非常に嬉しい事態ではありますが、一方で戒めなければならないと思う事もあります。それはその「発見・熟練」は本当に作品を繰り返さねば現れなかった事なのかという問いであり、事前の思考や準備は万端であったのかという点です。1回目の上演だからといって作品の甘さが覗く事は避けるべきですし、周到な事前作業を経て上でも「本番でしか発見出来なかった」事であったと語りたと思います。この方法の良さの一つは、「作品」を使い捨てにしていけない事です。「タイトルだけが異なる似たような作品」を羅列していくのではなく、一つの「作品」が持った課題を、その「作品」内で解決していく事は、私の現在の方針でもあります。(課題が現作品の容量を超えてしまい、新作に移行する場合はありますが。)質問にある文章は、「同じ作品」であり「変化」です。

この若干の矛盾を孕みそうな二つの言葉を両立させるには、作品の「核」であるとか「核」になりそう・見えそうなものは何なのかという点の思考が必要かと思えます。「舞台は一回限りのものである」という当然であり、且つ簡単には届かない事象に甘える事のない、思考を欲します。「再演」が中々実現されないのは、「新作」の方が動員をし易いというのも一因との意見を聞いた事があります。この事も本当にそうであるのか、またそうであったとしても手立てはないのか、興味深い点です。そして、その様な状況の中で意図的に「再演」を中心にプログラムを組む「踊りに行くぜ！！」の方針も非常に関心がある点です。この部分は企画者側がもっとアピールしていった良い部分である気が致します。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

同じ企画の本場に臨みますと、中々他の出演者の本番は見れませんが、リハーサルや会話の中から、他人の作品に対するスタンスや創造法などが垣間見え、その自身との「違い」を認識する事は非常に興味深いです。必ずしも自分の作品創りに影響するかどうかではなく、その「違い」を理解していく事は非常に面白いです。

残念な点は、具体的な話の中では中々刺激的な会話が起らない点です。例えば、前橋でアフタートークでも、話を振った方の方法を否定したいからではなく、寧ろその方の作品を私も好きでありますし、また認めるからこそ、方法の違いを話し、その互いの方法を明確にしなが、違いや多様性を認め合えないかと思っの行為だったのですが、機能しませんでした。

現在の「ダンス」という枠組み自体が、特定の趣向の集合ではない、若しくはそうはなっていないと認識していますから、余計に互いが関心を持ち得るのは、作品として表出されたもの自体よりも、個人の「思考」や「言語」であるのではと思うのですが、その部分に関しては正直刺激が足りない感、傲慢ながら持っています。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか？

初めての土地である事に関心は持ちますが、作品創作・上演上では左程意識しません。それよりも、初めての「人」との出会いが肝要です。作品自体に止まらない、私の「人」との関係の仕方において、初めての「人」と刺激的な出会いがある事は非常に喜びです。

一方で「ダンス」という言語が非常に典型的に捉えられる事が多いであろう地域での上演の場合、今回の「踊りに行くぜ！！」というタイトルや、「ダンス」という定義が「事前」にどのような目でもって迎えらるのであろうかという点への興味があります。「作品上演」以前にどのようなプロモーションや位置付けがされているかという認知によっても、「作品上演」の印象は変わってくるであろうと思いますから。

踊りにいくぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

確定事項ではありませんが、前橋の小見さんとは今後の企画の話をしている最中です。那覇では2001年の私の公演に協力してくれたスタッフとの久々の再会の機会を得、皆の近況も聞け、互いの今後の関係の可能性を探っていく事が強化されました。

また今回随分とお話しさせて頂いた事が大きいと思うのですが、相川さんが塾長を務めるワークショップ企画「スタッフ塾」で、「パフォーマンス(ダンス)と音楽」に関する話をするゲストに音楽のガスカンクと共に呼んで頂きました。3月28日に森下スタジオで2時間半ほど、話をしてきます。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

大きく違います。今回は、音はガスカンクを連れて頂かせて貰い、メイクの松本に関しても幾つかの御配慮を頂きながら同行させました。しかし照明の人間は通常のメンバーではありません。この事を音楽のバンドで例えると、ヴァーカルとギターとベースは呼んでいるけれども、ドラムはヘルプの人間でという状態です。通常バンドのツアーでは例外的なケースですし、私の方法から言うとその位、スタッフ否「メンバー」との関係は密接です。

今回の場合は、条件を知った上で「踊りに行くぜ！！」という企画に参加しておりますから、いまさらの文句ではない事を御了解ください。しかし何故この事を記すかという点、「踊りに行くぜ！！」に限らずに、ダンスのショーケースの多くが音、照明は個々のカンパニーの人間ではなく、全てを担当されるという「慣例」が疑問だからです。(予算の問題はある程度理解します。)

2000年の札幌の照明の高橋さんのケースもそうですし、今自分が一緒に活動している照明家も別なショーケースでたまたま知り合った人間ですから、希少な出会いが起こる可能性もあり一概な否定は出来ないのですが、リスクも相当にあります。正直ショーケースや多数のグループが出演される企画で余り馴染みの無いスタッフの方と作品を創っていく場合、通常よりも無難な提案から入ります。その上で関係を探りつつ、作品を向上させていきますが、上記のような良いケースにならない事も正直あります。

ショーケースや多数のグループが出演される企画の場合、一組辺りのリハーサル時間も少なく、その意味でも作品を共有していて、人間関係も取れているスタッフとの作業は有効だと思います。また各人の作品の作り方によって必要な人間も違います。一般的に考えられている「必要なスタッフ」の定義はそれほど頑なでなくてもよいと考えます。現状では基本的には2名(デュオ)までの作品上演を表明しておられる「踊りに行くぜ！！」に対する意見とはやや逸脱する部分がある話題かも知れませんが、理念的な部分としてお聞き頂ければ幸いです。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

5で記した事や、那覇などで佐東さんとお話させて頂いた事と関連します。バックされた作品を各地へ持って行くのではなく、その地方の方々はどう関わっていくか。現在は、音や照明、舞台監督といったスタッフを現地の方をお願いする事も、一つの軸にされているようですが、これは作品の「精度」に関して、相当な危険を孕んでいると思います。

「同じ作品の巡演」も核としている企画である以上、テクニカルなスタッフは極力、統一されていた方が良いと思います。それを前提の上で、札幌の高橋さんや、仙台の石井さんなど、各地方で欠かせないと思われる方に関しては参加して貰う。(人名に関しては主観ですし、例えばです。)間口は開けておくとしても、現状の前提と例外は逆転していた方が良い気がするのです。でないと作品がズタズタになる可能性まであります。各地方の方々との関係は、基本的には制作部分とボランティア(?)や学生スタッフなどとの関係を中心とする。そしてそこで出会った人が、今後どのようにダンス、アートと関わりたいかは把握して、次回に活躍の場所を確保していく。

「踊りに行くぜ!!」は一日に多数が出演するショーケースであり、精度にこだわるのであればそれは個々の公演でやるべきであるという意見もありますが、現状の「コンテンポラリーダンス」界(正体不明な部分も多いですが)では、注目度の高いイベントになっていると認識しています。登竜門的な権威になっていく事は危険であり、その意味の注意は払うべきであろうと思いますが、注目度が高い事自体は歓迎できる事と思います。とすると、出演者側としては相当な「精度」も要求されているように思います。

「精度」に関連しますが、直接話を聞いたり、武藤さんのHPのクロスレビュー上などでの様々な方の意見を見ると、私も参加した前橋公演への意見は、あのような希有な場所での企画自体は素晴らしいが、各演目には不満が残るという声を複数聞きました。こと私の公演に関しては、同意せざるを得ない部分があります。しかし、それは見えずらい所ですが「企画」側の問題でもあると思うのです。私が上演した中庭という特殊な場所の場合、通常の劇場の作業システムではまかないきれない事態が多く起こります。通常より念入りの思考と、その為の時間、入念なりハーサルが「精度」には必要です。無論下見もし、日が暮れねば照明が見れないという我々の環境を説明し、佐東さんに無理を言って前々日に会場入りをさせて頂きましたが、上の会場のリハーサルが押した影響もあり、実際の照明をつけてみる事が出来る時間は余りに僅かでした。

画して、本番中に照明がビビったり、つかなくなる事故は起きました。つかなくなった一灯は構成上、相当なポイントとなっていた部分でしたし、かなりダメージは大きいです。事故はLIVEにつきものとはいえ、危険を察知出来る綿密なりハーサルと話し合いが「通常のように」出来ていたら、あの一灯が作品上でどのような位置を占めているかをもっと話し合えていたら対処はあったのではないかという、悔しさは正直残っています。

音に関しても、上の会場とバッティングしますから、アンプを通して音を出せる時間は非常に限られていますし、更にあの広さをカバーする音響システムとしてはそもそも不十分です。事前の話では、会場に入ってからでも音響システムの追加は可能との事でしたが、実際には上の会場の機材を間引いて我々の会場に持ってくればという事で、上の会場の機材が余っている訳ではない状況ではそれはちょっとはばかれる提案です。愚痴を言うつもりではありませんし、JCDNへの無理難題を言うつもりでもありません。ただ、これが我々自身の公演でしたら機材手配を含め全てやります。そうでないのならば企画側のテクニカルな責任の所在がもう一つ必要である気は致しました。その事への判断と対策が不足した自身への反省も含めてこの件を記させて頂きます。

別な点です。本企画はタイトルが、「踊りに行くぜ!!」でありサブタイトルにも「ダンス」が使われています。「ダンス」を否定するつもりはありません。ただ、この企画が取り上げている「ダンス」は一般的な認識が高い「ダンス」(パレエ、社交、ストリートなど)とは異なっていると思います。それらを拒絶するのではなくとも、一般的に認知されている「ダンス」ではない公演が行われるという事を表出する必要はないでしょうか? 「コンテンポラリーダンス」など皆無に近い地域での上演も多い企画です。フライヤーの文面では、「新しい」という表現が使われていますが、ここで言われている「新しい」の正体は何なのか、どういうものを選択しているのか、言語で狭く規定してしまわなくとも「匂い」は出した方だと思います。でないと、既存の「ダンス」ファン以外へはアプローチ出来ませんし、また前橋のアンケートにあったような「全然踊ってないじゃん!」という既存の「ダンス」ファンへの対応も出来づらいと考えるのです。言語でなくフライヤーのデザインの方向性一つでも違うと思いますし、JCDNが思う「ダンス」とはこういうものであると、規制が激しくならない程度に謳ってもよいのではないのでしょうか。

言語というものはどうも、良い点よりそうではない点の方が書きやすく、また後者の方が丁寧に記さねば誤解が生じやすい故、不満点の多い回答になってしまい申し訳ありません。しかしながら、今回も企画に参加させて頂いた事、非常に嬉しく、また大きな成果を頂きました。感謝致します。そしてこの企画は面白く、且つ更に面白くなるものであると感じています。今後も「踊りに行くぜ!!」には是非参加させて頂きたいと思っておりますし、また参加出来なくとも企画に関する意見や提案をさせて頂ける関係でいたいと思っております。最後に、前橋では希有な機会である日本庭園という場所での公演を、那覇では個人的には昨年は実現出来なかった沖縄公演を行わせて頂いた事、本当に感謝しております。

# DAMAI・RAMEI〔沖縄〕 (岡松美枝、比嘉いずみ、エコ・スプリヤント)

## プロフィール

・岡松美枝 美術、舞踏を経、ジャワ舞踊を学ぶ。2001年国際交流基金のフェローによりインドネシア現代舞踊調査研究を行う。  
・比嘉いずみ 6才から琉球舞踊を学び、1996年沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科修了。自主企画公演の他国内外公演も多数参加。  
・エコ・スプリヤント ジャワのシラット(武術)、ジャワ古典舞踊を学び、近年UCLA大学院でさまざまなダンステクニックを獲得し現代舞踊家として国際的に活躍。

作品タイトル:むい(森)

振付・舞踊:岡松 美枝、比嘉いずみ、エコ・スプリヤント(インドネシア)  
音楽:亀島良泉

作品メッセージ沖縄では御嶽に、ジャワではワヤン(影絵劇)にクカヨン(樹木型のシンボル)という聖樹がある。樹木をテーマに、伝統と現代、異文化間のコラボレーションにTRY!!



## 踊りに行くぜ!! 出演は初めて 出演会場/回数は 沖縄1回 計1回上演

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか?

それはそれは、たくさんの刺激を受けました。作品の具体的な創作に関わることから、アーティスト自身の生き様、人との関わり方に至るまで、考えさせられたことが多々ありました。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか?

これは、この場だけで語り尽くせない御質問です。公演以後、沖縄における「コンテンポラリー」なアートの仕事の在り方、また対峙する「伝統」との問題(これは日本の他の土地にはない地域性だと思いますが)、アーティストの意識と観客の意識の問題など、まだ整理しきれない問題を今回の「森(むい)」プロジェクトの中で、向かい合うこととなりました。作品創作観点にも関わる問題ですが、これらについて考えていく必要を感じました。また「伝統」からコンテンポラリーを見つめることについて、もっともっと探っていく必要があると、感じました。

踊りにいくぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか?

個人的(岡松)には、とても大きな問題提起を抱え、さらに今後の仕事にどう向かい合うことが必要か、確実に得たと思っています。もちろん、今回、出演の機会を頂き試みたことに関しての評価もあります。

普段公演をする際と何か違いはありましたか?

私(岡松)以外のメンバーは経験のほとんどが一般的な劇場の舞台が活動の主ではありますが、私自身はむしろ舞台より、屋内外問わず、さまざまな場所で踊りますので、場が変われば、状況は様々に異なっていきます。個人的には「踊りに行くぜ」を今後継続していくなかで、場の可能性を今後検討していけるといいのではないかと思います。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

今回、「森(むい)」に演出/構成を置いて、作品づくりを行うという変則的なセッティングをしたために、御迷惑をおかけすると同時に私(岡松)自身は、最終的に作品の制作・創作、両方において大変残念なことに、自分で自分の首をしめどんどん不自由になっていったように思います。もちろん、このようなセッティングをする作品がないわけではなく、さまざまな演出と振付の関係があるとは思いますが、それを探りたいと思ったことも事実です。シアトリカルなダンス作品でも、演出と振付の領分が不透明なものを見た時に非常に腑に落ちない気持ちになったことも今回の試みの端を発する点でもあります。

また、今回の構造を複雑にしたこととして、コラボレーションの方向性がインターカルチャルなもの(琉球舞踊と現代舞踊)とインターナショナルなコラボレーションを同時に試みようとしたことにもあるように思えます。このインターカルチャルなものの中でもすでに大きな課題もあり、それを超えるための起爆剤としてジャワ現代舞踊家考えたのですが、かえって今回起こったさまざまな問題を拡大したようにも思えます。それぞれがこのプロジェクトで探したいものへの、「ずれ」を整理しつくせないまま、舞台にあげることになってしまいました。

ともあれ、今回の「踊りに行くぜ」の企画にそぐわない方向性になってしまったこと、そして故意ではないにしろ、作品づくりの核となる点について、ディスコミュニケーションであったことを心からおわび申し上げます。さらに、まだ形の見えきれない試みをこの企画で段取りを取らず、挑戦しようとしたことに対しては大変な甘えがありました。今後は今回の失敗を活かし、ソロの活動と同様にコラボレーションの可能性をさらに探っていきます。また、インドネシアと日本のコンテンポラリーダンスの状況についてももっと追求していきます。今回、「ダンスをとおして個人からその人に生きる社会が見えてくる」ことをさらに強く感じることができました。

# ダンス アートプロジェクト参加者 [ 広島 ]

作品タイトル そして船はゆく

川野眞子コンテンポラリーダンスワークショップ(安芸区民文化センター主催)での参加者とのコラボレーション(共同作業)による作品



出演:ダンス アートプロジェクト参加者

岩室てるみ、岡村由紀子、木村景子、玖島雅子、久保崎圭子、白神美穂、関本麻須美、空 律江、竹西真莉恵、辻田真澄、中川裕胡、中村志津枝、縄田倫子、光永真希、益田恵理子、三宅由利子、椋田珠美、米田絢美

**踊りに行くぜ！！ 出演は初めて 出演会場/回数は 広島2回 計2回上演**

参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

文：玖島 雅子

2002.10月29日(土)踊りに行くぜ！！が安芸区民センターで開催された。同年8月26日～9月8日の9日間、広島で川野眞子さん(横浜在住)講師によるコンテンポラリーワークショップが行われ、その中で作品を作り上げて発表する企画(以下ダンスラボと記す)があり、ダンスラボの作品が出来上がった。その作品を10/26に行われる踊りに行くぜ！！に地元(広島)からの作品と言うことで、広島ダンスラボ作品で出演する事になった。踊りに行くぜ！！ではまれな総勢18人と言う多人数で出演した。

ワークショップ終了から踊りに行くぜ！！まで、約1ヶ月と3週間のブランクがあり、この間に作品の確認と作品時間、構成演出の手直しが行われた。出来上がっていた作品の部分部分が壊されリフォームされるように新たに变化していく様子は、作品の作り方の工程の様なモノを川野眞子さんから学ばせてもらった。せっかく作ったモノをいとも簡単に壊していく。彼女は、もったいない・・・と言う感覚は全くなく、むしろ壊す事を面白がっているように見えた。出来たモノを壊し、より良くする為に似た様な材質で高級なモノと取り替えるのではなく、全く素材やクオリティの別なモノを用意してくる。この恐れのない別視点での発想が作品やそこにいるパフォーマー達を面白くさせていく要因なのであるうか。

コンテンポラリー作品には様々な世界とクオリティのモノがあるが、今回作り上げた広島ダンスラボ作品に関しては、出演者の中に緊張感とか虚勢と言うモノは無く、18人と言う多人数に拘わらず、出演者はただただ解放され自分の意志で動き、そこには個々の有りの儘の一人一人が空間にきちんとそこに居た。狭い空間の中で、所狭と動き回るダンサー達。逆の発想で小気味が良かった。そう言った意味やダンサーの意識の変化と言うことで今回の企画は成功だと思う。

初めての経験、踊りに行くぜ！！出演はとても意味深い経験となった。この経験を次へ繋げて行きたい。

# Dance Samadhi〔福岡〕 (マユミ・ウイスニユスキー、末永クレア、案浦研)

## プロフィール

5才でダンスを始める。'81年のN.Y.ダンス留学後、ルビーシャングのカンパニーメンバーとしてN.Y.、ロンドン、日本(利賀村芸術祭)でビル.T.ジョーンズや磨赤児と公演。'87年デューク大学でのアメリカンダンスフェスティバルでルビーのアシスタントとして多くのクラスを指導。'90年帰国後インターナショナルダンスネットワーク結成。ストリートチルドレン救済チャリティー公演を10年に渡り行う。2001年ダンス・サマディー結成。



## 作品タイトル「内なる旅」

振付:マユミ・ウイスニユスキー

ダンス:案浦研、末永クレア、マユミ・ウイスニユスキー

作品メッセージ:過去と遭遇する感覚。例えば空想の中でも直感的にきっとこれは実際に起きたと感じる自分の中でのいくつかの場面をつなぎあわせ、解答となる時間や空間を越えた万有引力への魅力。

**踊りに行くぜ!! 出演は初めて 出演会場/回数は 福岡2回/大阪2回 計4回上演**

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか？

自分の作品内容に対しての追求

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

コンテンポラリーダンスというジャンルの幅の広さ・アイデアや動きそのものの自由さ

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか？

知り合いの中で応援されながら上演するだけはいけないと思いました。これからも多くの機会を求めてカンパニーを前進させたいです。

踊りに行くぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

今回は冷たい批評ばかりでした。でも愛を感じ(前向きすぎるだけかもしれませんが)もっと「自分の中でやれるもの」を見つけだす希望を得て次の公演にむいて集中(以前にまして集中)しています。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

大阪公演の照明の確認・サウンドチェック100%自分の作品に対してエネルギーをそそいでいただいた気がします。(これまで公演してきた中でサイコーのスタッフでした)

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

今回の作品はコンテンポラリーダンスというジャンルに憧れて参加したというだけでまだ自分たちの中で深い理解ができずに終わったような気がします。

「踊りに行くぜ!!」に参加させていただき新しい扉を開けたような、とても新鮮な気持ちです。これからだと思えます。今回の参加中は「他からどう思われるか」ということを気にしすぎて集中できなかったのがこれからは創作、同時に表現法を迫及し、「自分たちのダンス」を確立していきたく思います。有難うございました。

# ダンスユニットセレノグラフィカ (隅地茉歩、阿比留修一)

## プロフィール

97年、関西を拠点に別個に舞踊活動を行っていた隅地と阿比留によって結成。作家として独立した作風を持ちながら、それらを融合し現在に至る。デュエット作品を創作することで、質感の異なる二つの身体が共鳴、或いは拮抗する瞬間、また、性差の個性及び普遍性をダンス作品に盛り込むことを試行している。「終わりのない告别」「視交叉上核に聞け」「イシュタルー境界をつなぐもの」等、軽・重・軟・剛、幅広い作品を発表。



作品タイトル 樹下の双魚  
振付・ダンス:隅地茉歩、阿比留修一

作品メッセージ:探している間に、何を探していたのかわからなくなった。見つけたと思ったのに、錯覚にすぎなかった。縮まらない距離感。気が付けば、こんな所まで来てしまっていたー。

## 踊りに行くぜ!! 出演は 初めて 出演会場/回数は 横浜2回/松山2回/仙台2回 計6回上演

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか?

大幅に構成を変えたということは無かったが、作品後半部分に随分工夫を施す機会が得られた。3箇所上演した中で、其のつど加えたり削ったりしたモチーフも多い。また、同じ動きでも順番を組み換えたり、音を入れるタイミングと長さなどについて、最後まで微調整するチャンスがあったので、3箇所目でようやく確定させることができた。

衣裳については、各地での反応や意見を参考にしながら、毎回少しずつ違うものを試し、これも最後の開催地で確定の形に到達した。同じ作品を、上演を重ねながら練り上げて行くという、知ってはいるが経験の乏しかったことを実地に体験して、その意義深さを改めて認識した。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか?

個性の強い共演者に恵まれ、その中で、何をアピールするべきかということを明確に意識する必要に迫られたことが大変刺激になった。これまで、地元で他の出演者とダンスフェスティバルで共演することはあったが、その場合だと、それぞれの支持層がどのあたりにあって、どのような反応がどの程度あるか、事前に見通しを立てることができていた。

しかし、「踊りに行くぜ!!」の場合は、全く初めての土地で初めての観客に同じように見られるということが、冒険でもあり、挑戦し甲斐のあることであった。また、舞台美術を用いる共演者が多かったが、各々の方の美術への細かなこだわりと、技術的な執念に触れることができた。自分たちが作品創りに美術要素を用いたことが少なかったので、楽屋での準備段階からそのような方々の姿勢に触れ得たことで、創作姿勢に対して視野が広がったことはうれしい。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか?

初めての土地、それも、全て遠隔地だったため、自分が呼んだ観客はほとんどいなかった(横浜2人、松山1人、仙台0人)。その分、プラスにしるマイナスにしる、先入観を持っている人がいない中に出ている喜びはあった。そこでどう見てもらえるのかという意味で。

また、関東、四国、東北と、土地柄が随分違う場所で同じ作品を上演して、反応のある箇所が共通していたりすると、作品のある種の普遍性(長所、短所ともに)気付くこともできたといえる。

踊りに行くぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか?

具体的なことはまだ無いが、最終地(仙台)の2週間後に地元大阪で本公演を開催することになっていたため、巡回した作品の成果をあたにかい内に披露することができた。そこでは、もちろん「踊りに行くぜ!!」とは異なり、自分たちの過去の作品を知っている人たちの前に今回の作品を出したわけだが、若干名を除いてはかなり好評を頂き、巡回して作品を成長させたことに手応えを得られた。さらに劇場プロデューサーやスタッフからも、このことが今後の動員につながるのではないかと意見を頂いた。

また、アンケートの中に、「踊りに行くぜ!!」に参加した作品を是非見たくて足を運んだという方がけっこういたことについては実にありがたいことだと感謝しています。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

私どもの場合は、3回のうち、乗り打ち2回、前日入り1回であった。その日初めて顔を合わせたテクニカルスタッフとベストの上演状態を確保するために、短時間で要領を得たコミュニケーションをしないといけないことで、当たり前のことだが鍛えられたと思う。

また、開催会場の中で最もコンパクトな所から、その6～8倍はあるのではないかというような広い場所、そして、広さはその中間くらいだが雰囲気の特徴の会場へと転々とし、結局事前に図面をもらっていても、実際現地に行ってどれだけ臨機応変に対処できるかという、これまた当たり前のことを思い知った。

その他、普段と違っていたのは、チケット完売状態で満席というような、恵まれた状況の中で上演できたことで、やはり喜ばしくラッキーであったと思う。アフタートークにもほとんどの方が席を立たずに残って下さって質疑応答が盛り上がりを見せたときには(特に仙台)、場を共有しているという実感があつた。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

現在最も痛感していることについて述べてみたい。これまで、自分たちの作品創りにおいては、装置や美術を用いることが少なかったが、今回そのような要素を巧みに採り入れた優れた作品と共演する機会を得た。素直な観客からすれば、作品鑑賞は、ほぼ20分という決まった時間枠の中で、自分たちをどれだけ刺激し楽しませてくれるかと言う尺度があるだけで、作品世界をトータルに見たときに、それがどれほど興味深いものであるかに尽きるのだということを感じた。そういう上演環境に置かれたことによって、自分自身を知らず知らずの内に鑄型にはめていたのではないかということに気付いたことは大きい。それは、これからダンスを鑑賞し愛好していく可能性のある人たちに、どういう形でコンテンポラリーダンスを見る楽しさ(広い意味での)が浸透していくかについて、創作する側の人間として、責任を持って考えて行こうということにつながった。

手法や方向性やテーマにすら固執せず、時事刻々と動く社会の動向に目を開くことが、回り道のようにいて近道なのではないかと思う。

とにかく、今回の巡回プロジェクトに参加した今年の10～12月は、過去の、硬直を抱え込んでいた自分自身を、あっけらかんと打ち負かすことのできた3か月間であった。このことを今後広く周囲に還元して行けるよう考えていきたい。

関係各位に心から感謝の意を表します。

# 千葉里佳、今野由紀、西美紀子〔仙台〕

## プロフィール

・千葉里佳: 金井利久、齋藤和美、峯岡比呂美らに師事。'99年「真っ白でいるよりも」'00年「Rhythm ~からだの中に~」を発表。現在フリー。  
・今野由紀: 初江道子モダンバレエ研究所のダンサーとして活躍。「2001年宇宙の旅人」、「Frid egg」、「永遠のはじまり」など多数出演。  
・西美紀子: 5歳より初江道子モダンバレエ研究所にてモダンバレエを習う。「chaff2」、「ドレスを着た裸体」、「Angler」等に出演。

作品タイトル 「Link」

振り付け・出演者

作品メッセージ:

~つながっている~、~しんじあえる~こと  
毎日繰り返される日常生活の中で、自分が周りの人つながってる、  
そう感じるのとは一体どんなときなのでしょう。



## 踊りに行くぜ!! 出演は初めて 出演会場/回数は 仙台2回 計2回上演

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

**千葉**: 衣裳・照明・音楽など観客の視覚・聴覚に最初に飛び込んでくるものへのこだわり。また、他にない動きを生み出そうとするパワーのようなものを強く感じました。

**西**: 初めてで何もわからないので、長く苦しい道のりだった、と思ったけど、たくさん経験を積んだ方たちも、苦しみながら作品を造っていていることがわかりました

**今野**: 作品の見せ方、踊るということがどういうことなのかを見せてもらい、それを考える機会になった。

踊りにいくぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

**千葉**: バレエスタジオで子どもから大人に、クラシックバレエを教えています。今回の舞台が終わった事で、今まで行っていた作品の創り方とのプロセスが全く違うので、これからどうしていこうかと正直戸惑いました。が、恵まれた機会があって今、子どもたち自身で作品を作る試みをしています。どうなる事かと思って始めたのですが、結構いろんなアイデアが次々出てきて、楽しんでます。だから、与えられた振りをこなすダンサーじゃない、何かを生み出す力も持ったダンサーを育てて行く事に貢献していけたらな~と考えつつ、仕事をしている感じです。

**西**: 仕事ではないけど、作品を造るということの考え方が変わりましたいろいろな創りかたをこれから体験してみたいです

**今野**: 今は特にないが、今後発展していけたらと思う。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

**千葉**: 通常の発表会の乗りとは異なっているのだろうとは想像して、トゲトゲした空間なのかと思っていました。が、競演者の方たちは気さくだし、スタッフも協力的で、とてもやりやすかったです。ただ、他県から来仙するダンサーとの舞台というのもあって、言いようのない緊張は終始ありました。それぞれのグループがリハーサルをし、通しの段階になると佐東さん、もしくは水野さんがいつも客席で見てくださって、常に「いい作品」を創るためにアドバイスを与えてくださったのは、私はとても有り難かったです。

**西**: 公演といっても、先生、先輩方の作品に出させてもらったことしかなかったので、今までと全然違いました

**今野**: 特に違いはなかったが、現場、会場、出演者のみなさん、全ていい雰囲気の中でやらせてもらった。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

**千葉** : 今回の「踊りに行くぜ」に参加した事で、原点に戻った気がします。「踊る」ということ。「表現」って?。「自分らしさ」って何だろう。そんなことをよく考えるようになりました。いろんな表現方法があり、個人的にも興味があって役者・歌手・ミュージシャン等と共演したこともあります。そのときそのときで、おもしろいと思った舞台に関わるようにしてきました。気が付いたらいろんなジャンルのダンスを踊っていました。きっと「自分らしさ」を探していたのだと気が付きました。

私の踊りのベースは、クラシックバレエです。そして、クラシックバレエの基礎は、すべての踊りの根っこになるものだとは私は考えています。そんな考えが、もしかしたら「私らしい動き」を模索している今の段階で妨げになっているのかもしれない…、と考えたりもしました。けれど、そう考えてしまうと、今まで培ってきたものを全て否定しているようにも感じてしまうようになってしまいました。今までの自分を否定はしたくないと思っています。だから、そんな自分を踏まえた上で「私らしい動き」を「表現」を見つけたい! その事に気付かせてくれた舞台でした。

もう一つ、「舞台に立つ」ということがどういうことなのか…。衣裳にしても・メイクにしても常に自分を身構えるような方向に導いていた事にも気付かせてくれました。そして、その不自然な身構えが、観客にも伝わるのだという事も、もっともっと自然でいいですね。

多くの事に気付くことができ、ますます舞台が好きになりました。世界は広い。本当にいい経験をさせていただきました。どうもありがとうございました。今後も創り続けていきます。よろしくお願いします。

**西** : 今回は、この公演に参加することも初めてでしたが、それ以前に作品を造るということも初めてでした。テーマを決めて、3人で作りはじめたのですが、最初は曲にあわせて振りを詰め込んでいくことに追われ、また他の二人に気を使って、違和感を感じても、自分の意見をいうことができず、やりたいことからどんどん離れてしまいました。

佐東さんに作品を見ていただいてから、3人で話し合い、思ったことは言い合えるようになったのですが、今度は、やりたいことのイメージはあるのですが、実際やってみると全然見えなくて、いろいろやってみるうちになにをやりたいのかわからなくなったり、最後にはなにをやりたいのかわからなくなりました。実際、公演が終わってみても、わからないことのほうが多いような気がするのですが、それだからこそ、これからも造ることを続けてみたいと思います。

**今野** : 今回は、最初ビデオで応募するところからはじまって、舞台にのせるまで長い時間をかけて、作ってはなおし、作ってはなおしの繰り返しで、本番間際まで変え続けた。ひとつの作品に対して、こんなに長い時間をかけたのは初めてで、時間だけではなく、作品の作り方も、こんなに話し合っ、悩んで、いろいろな角度から作ろうとしたことも初めてだった。自分を客観的にみることがどういうことか、終わってみてはじめてわかった気がする。

でも、今回の作品は、これからやろうとすることのほんの入り口であり、これからがほんとに長い道のりだと思う。このようなきっかけをつくってもらい、自分にとってプラスだらけの公演に出演することができ、感謝しています。

# 手塚 夏子〔 神奈川 〕

プロフィール:日本マイム研究所を経て、ソロ活動をはじめ。マイムの領域を探りつつ踏み越えつつダンス公演を名乗るようになる。自力のソロ自主公演など、よちよち歩きの駄作時代を経て、「まったり及びテンパリ」の世界観を作品化する。

00年よりダンスカンパニー「ニプロール」の作品に出演。

昨年1月、生きた自分の体を素材とし、実験を試みる作品「私的解剖実験」が誕生。02年1月、私的な実験の小さな成果を経て私的解剖実験 - 2」に結晶。同作品にてトヨタコレオグラフィーアワードにノミネートされ、7月に本選出場。



作品タイトル:「私的解剖実験 - 2」(前橋)  
「私的解剖実験 - 3」(名古屋)

振付・ダンス:手塚夏子

作品メッセージ体のある部分を特別扱いするだけで、もういつもの体でなくて面白い。例えば奥歯のはぐきとか、足の中指と薬指の間とか、鼻の穴の中央の壁とか、自分の知らない自分の体が、そこに現れる。

## 踊りに行くぜ!! 出演は 初めて 出演会場/回数は 前橋2回/名古屋2回 計4回上演

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか?

特別に、別の作品を上演させていただきました。どちらも再演だったので、初演の時から比べて状況によって柔軟に作品を遂行させることを学びました。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか?

自分とは全く違うそれぞれのスタンスで作品を創っている姿が、刺激になりました。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか?

違う土地のお客さんは、東京近郊とはまったく違う空気感を持っていて、大変勉強になりました。井の中の蛙だったと思いました。

踊りにいくぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか?

状況によって、どのように作品を遂行させるか、どのように作業を進めればいいのか、どのように自分の身体管理を行うかなど、次につなげていきたいと思います。

普段公演をする際と何か違いはありましたか?

土地の人によって、作業の進め方や、常識が違うので、テクニカルなどはとくにとまどうことが多かったですが、自分の常識を過信してはいけないとおもいました。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

自分の作品で旅公演をするということはめったにない機会だったので、お話をいただいた時はとてもうれしかったです。実際に事をすすめると、思った以上に大変なことが多く、例えば会場が劇場ではない場合の自分のアクティングエリアで具体的にどのように場所を利用するかとか、すぐには下見にいけなかったり、実際に行くまでは未知の部分が多く、大変でした。でもその分ひとつひとつの経験が、現場を乗り切る体力に繋がると思います。

土地の人々が東京のどのダンス企画もののスタッフよりも親切で、あたたかかったのが、とても印象に残っています。自分もダンス企画もののスタッフをやっていますが、アーティストに対しての姿勢はずいぶん横柄だったのではないかと、大変反省しました。JCDNの皆様もアーティストへの愛の眼差しを感じ、感動しました。本当に、アーティストにとって成長の機会としてまたとない企画だと思います。

# てらにしあい、 tomomi〔名古屋〕

## プロフィール

てらにしあい…早稲田大学第一文学部演劇専修在学中より「パパ・タラフマラ」に所属。`97年に退団後、東京でソロ活動を開始。`99年渡独、主にベルリンで活動。帰国後`00年より名古屋で活動。tomomi…`96年ノースカロライナー州立芸術学院モダンダンス科修了。帰国後`00年より日本でのダンス活動を開始。名古屋を拠点に、スペイン、東京、大阪などで活動。`02年「KPS(ケイトプロジェクトS)」を結成。



## タイトル 「クナチ」

振付・ダンス:てらにしあい、tomomi

## 作品メッセージ

「かなえられなかった夢も、伝えきれなかった想いも、すべて夏の日の海に流してしまえたら…。2つのソロを構成しなおし、1つにまとめあげた作品。」

## 踊りに行くぜ！！ 出演は 初めて 出演会場/回数は 名古屋2回 計2回上演

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

それぞれの追求の仕方

踊りにいくぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

公演を見に来てくださった方の中に翌日のワークショップも受けてくれた方がいて、知り合いになり年末のイベントに出てもらうことになったり、クラス(レギュラ で教えている)を受けに来てくれるようになった。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

いろいろな公演に参加させてもらっているので、その公演ごとに遣り方など違いがありますが、JCDNの場合は、やはり“プロ意識”や“創り込み”の意識がどの方にも深く有り、特に違った。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

他の地域で活動されている人と一緒に出演できたのは、刺激になりとてもよかったです。

～自分の言葉(オリジナルティー)を使い自分の表現したいことを追求していく～と、いうことを久しぶりに生で体感できたような??出演者の方々それぞれの個性があまりにも違ったので、その中で自分の'個'とはどんなモノだろう?と、考えさせられました。'自分の表現方法'をどんどん探して行きたいです。

照明を相川さんやってもらえたのは、本当に嬉しかったです。踊っている時、「ココで照明が変わってくれたら。。。」と、思うところにピタリとはめてきてくれたので、感情もとても入りやすくテンションも上がり気持ちよかったです。照明との一体感を凄く感じられました。

出演者人数の事で希望ですが、、1組1~3人を、5人ぐらいまで増やしてもらいたいです。色々諸事情はあると思いますが、単純に人の数が増えるだけで空間も変化するし、観客にとってもソロもありユニットも有りというのは面白いと思います。

## 得居 幸、 戒田 美由紀 (松 山)

プロフィール  
同じファーストネームを持つ。  
2人が出会ったのは大学時代。  
その後、松山でのAmanda Millerのワークショップ  
を経て選出されたダンサーによるユニット「yummy  
dance(ヤミーダンス)」のメンバーとなる。  
本能以外の部分と戦いながら、本能に帰ることに、  
我ら沸騰中。

作品タイトル 「モモ色の空」  
振付・ダンス:得居幸 戒田美由紀



作品メッセージ: あのパーティで踊る。そして どこかへ帰って行く。 私は何かに 負けたのだ。

### 踊りに行くぜ!! 出演は 初めて 出演会場/回数は 横浜2回/沖縄1回 計3回上演

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか?

**得居** : 上演するたびに、たくさんの意見があり、そこから発想が変わったり分からなくなったりと、もう一度同じ作品をすることで、原点に戻る事が出来るのが魅力でした。あとはとにかく、無い頭でたくさん考えました。何かが変わる変わらないにしろ。

**戒田** : はい。同じ作品かと思うくらい各場所で変わりました。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか?

**得居** : 外に出なければ会えない人との会話は、だれと話すにしても面白かったです。出演者の方たちはとにかく親切で、たくさんのことを(例えば照明や音に対するアドバイスなど)学びました。

**戒田** : はい。作品に集中することに夢中であることです。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか?

**得居** : 緊張! なんせ初めてのお使い気分でした。

**戒田** : その場所がどんな所か把握するのに時間がかかりました。もっといろんな所で作品を上演して話ができるように松山でなおし、頑張ろうと思いました。

踊りに行くぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか?

**得居** : 無いです。

**戒田** : 話を自分からしようと心がける様になりました。

普段公演をする際と何か違いはありましたか?

**得居** : 雰囲気(お客さんにしろ、出演者にしろ)、その土地ごとにあって、面白かったです。

**戒田** : 作品が違いました。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

**得居** : あ~。終わった。皆さんそう思ってるのではないのでしょうか。とにかく、たくさんの出会いが、作品を育てた気がします。(どう育ったかわさておき) 作品を沢山の人の前で踊るということが、とても怖かったです。これは自信の無さがそうさせたのだと思うけど。とにかく怖かった。だから舞台上に立てたのかもしいないですが。

**戒田** : 今回踊りに行くぜ!!に参加して良かったです。時期を待っていてはあっという間に過ぎてしまうから、今できることをしたいと思いこの2作品に取り組んだのがきっかけでした。実際、自分のことだけで精一杯で最後佐東さんにも見透かされ、作品づくりの過程を結果さらしに行くぜ!!となりました。好きな人をつくって今度は踊りに行きたいです。ありがとうございました。

# 星加昌紀 × 高橋砂織〔松山〕

プロフィール：  
出会って12年、初のデュオ。現在、新作会議中。

星加：'99～'01年、山崎広太rosy CO.にダンサーとして参加。国内・外の公演に出演。その頃から個人的に創作活動を行い始める。

高橋：'99年アマンダ・ミラーと出会い、ダンスユニットyummy danceとしての活動が始まる。フライブルグ・松山にて、交流パフォーマンスを行う。2人共にダンス集団MOGA-Japanのメンバー。

振付・ダンス：星加昌紀、高橋砂織

作品メッセージ：

真ん中にはいつもそこにある。2人でぶかぶかしてたら、突然周りの世界が悲鳴をあげた。バランスを保つためにアンバランス ある日、見えていたものが見えてくる。



**踊りに行くぜ！！ 出演は 初めて 出演会場/回数は 札幌2回/富山2回/東京2回 計6回上演**

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか？

02年6月地元松山での選考会の初演と比べると3箇所での巡回公演を終えた時とは、随分かわりました。基本的なイメージはそのままですが、そのイメージにより近づけるために振付が一番変わりました。音も3曲変えました。それぞれの巡回公演での印象は異なりますが、最後のステージで初心に帰れたというか、次への展望が見えてきました。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

山ほどあります。まず、作品の個性がそれぞれクリアなので様々なダンスがあることが面白かったです。本番への上演のもっていき方も様々で学んだことがいろいろありました。道具を使った作品でその生かし方の執着心はすごかった。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか？

自分たちの作品を新鮮に保つため集中してましたが、行く先々の環境(街並み・食文化・お客さんの反応)の違いと人との接し方も、その土地がらのようなものが反映されてて、作品のアイデアになったこともあります。日本も広いと思い、また知らない土地へも行ってみたいと思いました。

踊りに行くぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

まだはっきりしていませんが、素敵な出会いもあったので、これから見えてくることもあると思います。今回は2人での1作品目なのでこれから発展させていくところです。違う場所で、また地元で再演してみたいし、新作にとりかかっています。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

地元ではスタッフもお客さんも顔見知りが多いので巡回先では、初めて会う人がほとんどなので新鮮でした。テクニカルスタッフとのやりとりはまだまだ経験不足だと思っていたのでいい経験をさせて頂き、今後のプラスになりました。それぞれの会場に味があり、むしろとけこめたと思います。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

「踊りに行くぜ」の企画に参加できたことを大変嬉しく思い感謝しています。印象的なのはどの場所でも打ち上げです。行く先々でのおいしいもの、名産が食べれるということ。アーティストだけでなくスタッフや地元の関係者が集い「あーだこーだ」言いながらさりげなくも作品についての感想・ダメ出しなど論議したり、ダンスを取り巻く環境について語ったり語られたりしながら明日が本番だというのに夜がふけてゆく…話をしてわかりあえることもあります。思った以上にみんなお互いのことを見ているし、ただ作品を上演するだけでなくひとつのコミュニケーションの場所になっていると感じました。そういう何気ない会話からも新しい何かがうまれてくるわけで…

地元松山での初めての開催が印象的でした。松山以外の人コンテポラリーダンスの公演を観る機会が少なかったのがダンス関係者やそうでない人にもいい企画だったと思います。お客さんも多かったように思えますし、今後Vol4にむけて新しいアーティストが「踊りに行くぜ」にトライしていくのではないかと思います。

同時にコンテポラリーダンスがあまり社会に浸透していない、あるいは知らない人がまだまだ多いということ。公演の情報の広め方や受け手側のばらつきで客足、またお客さんの質が偏ることがありうるということ。コンテポラリーダンスに限ってなのででしょうかシーンが若いからでしょうか。都会(中央)、地方ということではなく、これほど情報があふれメディア、ハード、ツールが飛躍的に進歩しているのだからもっとたくさんの人たちに知ってもらいたい観にきてもらいたいとおもいました。

「踊りに行くぜ」今12箇所ですがもっと多くなると信じてます、続けていけるよう応援してます。ありがとうございました。

# 松本 大樹〔東京〕

プロフィール:  
玉川大学文学部芸術学科中退。多摩美術大学芸術学科卒業。

'98年 Laban Centre London卒業後、同カンパニー入団。'99年より香港に渡る。香港舞踊団、Dance Art HK等の作品に参加。小、中、高校、一般を対象としたクラスを展開。CCDC及び香港教育省主催小中校舞踊祭への作品提供。

'01年第5回 Profession Choreographie(Zurich)に選出されプロジェクトに参加。



作品タイトル: phonicandabove

振付、ダンス: 松本大樹

作品メッセージ: ひらめきを、未来から聴き分けているphonic氏と、それも終わって存在自体が見えなくなりつつあるabove氏の2者がいる風景をソロで。英語にしちゃうと「音の及びそれ以上の」。

**踊りに行くぜ！！ 出演は 初めて 出演会場/回数は 福岡1回/広島2回/富山2回 計5回上演**

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか？

回を重ねる毎に変化していくほどの深みのある作品ではなかったので、特に変化しませんでした。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

これまで作品のエンディングとして「ピークのまま終らせるもの」が好きで、ピークを過ぎてまでもダラダラ時間の無駄づかいをしているようなものをつくるのに興味もありませんでしたが、福岡で北村成美さんの作品を観て、ピークは過ぎていのにフェイドアウトしていく彼女の仕方をみて「こういうのも美しいものだなあ」と、初めて思った。でもあれは、あれだけ彼女の体が安心して美しいのであって、ダンサーによるなあともし、あれは誰でもできることではないのでぼくはやめたほうがいいと思った。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか？

お互いに面識がないためダイレクトに作品を鑑賞してくれるので、素直に身体をさらけ出せた。

踊りに行くぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

今現在のところかたちになったものはありません。色々な分野の方とお話できたことは、もうそれだけで可能性ができたという意味で大変価値のある出会いを沢山いただきました。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

現場に、より良いものを求める空気があり、しかもそれは非常にポジティブなムードだった。珍しいことなので驚いた。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

3ヶ所で公演させてもらったので、おのずと他の参加者の作品を観ることができ、のべ10作品程度をこの1ヶ月強のうちに観たことは非常に意味深い経験だった。他の参加者の作品が本番をむかえる寸前の数日間を観察できる機会に1ヶ月の間に10作品分もたちあえるということはそうそうない。どの時点でどういう決断を下すかの10通りをサンプルとして目撃できたこと、その1つ1つのデータがその後確かにぼくに影響している。貴重な体験でした。

3人の方の言われた3つの言葉がぼくに残っています。

同じ作品を繰り返し踊ることに慣れてきて新鮮みが欲しくなり、3ヶ所目の富山で照明パトンを降下させる位置をこれまでよりもっと下げ、「見た目」を楽しんでいたテク・リハ中のぼくに、佐東さんの言った「小細工をしちゃいけないよ。」が1つ。

それからやはり富山の1日目が終わった後の海鮮料理屋での夕食の際、アサヒビールの加藤さんがぼくら居合わせた振付家に語った「日常の風景を作品にするのも面白いけど、もっとそこを離れた世界のものも是非みてみたい。」といった言葉。

そして、福岡イムズでの作品終了後のアフター・トークの時、進行役の水野さんがステージからマイクを通してお客さんに語った「彼等、振付家は私達には見えないものを見せてくれる。」だ。

作家は全くのゼロから始めてそれをカタチにしていくまでを担う。振付という作業に求められている課題の大きさを改めて思い知らされた、ぼくの「踊りに行くぜ！！」1ヶ月間だった。面白かった。

# 松本 芽紅見〔大阪〕

ハントワリング・ジャストダンス・ミュージカルを経てダンス一本に。  
'98年大阪芸術大学 舞台芸術大学卒業。  
その後New YorkのAlvin Ailey American Dance Centerにダンス留学する。帰国後はヤザキタケシ氏のカンパニーArrow Dance Communicationに参加。同時にソロとしても活動を始める。日本だけに活動の場をとどめずフランスの振付家の作品に出演する。



タイトル 「Firefly」  
振付・ダンス:松本 芽紅見  
作品メッセージ:  
繰り返すくりかえす。行き来するいききする。押されるおされる。  
引き寄せられひきよせられる。見つめるみえてくる。見えたら向かって行ってみる。私は年を重ねていく。

**踊りに行くぜ！！ 出演は初めて 出演会場/回数は 横浜2回 計2回上演**

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか？

巡回はしていませんが、1回目の公演から2回目の公演ですら変わったと思います。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

今回は知った方たちばかりだったので得た事、刺激になったことというよりは心強かったです。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか？

世間は厳しく、自分は甘いという事。

踊りにいくぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

ありません。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

正直、会場や、お客様の雰囲気などをあまり感じている余裕がありませんでした。というより、むしろない様に思います。出演者も知った方ばかりだったからかもしれませんが。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

私は関西からの出演者という事でビデオ撮りの際から2度ほど作品を稽古段階で見ただけの事はとても有り難かったです。特に、今回はソロで参加させて頂いたので、時間が経てば経つほど自分自身とまた、作品と会話する事をしなくなっていってしまいがちだったのですが、頂いた言葉から明確になることも多く、どの様な視点で作品を見るかという事を改めて学んだと思います。

ひとえに私の考えがあまかったのですが、、、。以前に上演した作品の再演だったので自分が作った世界でその当時の自分になって踊る、、、。このような恐ろしい事をやっていたように思います。時間が経てば多少知識も増え、年も取り、変わっているはずなのにそれを無視していました。そのことに気づき私らしさや今の自分を作品の中に組み込んでみると当然ズレが生じて、、、。ここが始まりのハズなのに、放っておけばこのポイントにつくまでに公演していたかもしれませんが、さすが、このズレというのは踊る身としては多大な不安材料で、まとめようとすればするほどズレの幅は大きくなり、さらに不安になる。

この繰り返しをしていた時にオーガナイザーである水野さんから「失敗してもいい！やりたいことやりなさい！責任はとるから。」と言って頂きました。この様な事は冗談で言える様な事ではなく私にはとても心強い言葉でした。そして踊りに行くぜの意義が分かった様に思います。いい作品を作ろうとするのではなく、その時点で最大のチャレンジをする事。踊りに行くぜに関してだけではないですね。すべてにおいてです。終わってみたら、私がやった事はてんでバラバラだとは思いますが、あの時点でパフォーマンスの内容として後悔はありません。そして次にするときはこうする！という明確なヴィジョンが見えました。

他の出演者の方々とも厳しい合宿を終えた様な仲間感を持つほど仲良くなれてこれからいいおつき合いができたらいいなと思っています。チャレンジする事はとても勇気のいること。それを場所もスタッフも用意してあげる！だからパーンとやんなさいというようなこの様な機会はさらに勇気あることで、、、とても貴重です。このような貴重な機会に出演出来て、いい経験をさせていただきました。ありがとうございました。

# 山賀 ざくろ〔前橋〕

## プロフィール

前橋ダンシングアートスタジオにてダンスを始める。スタジオ関連の舞台を中心に活動してきたが、'97年より自主公演を開始。今後は地元で主に子供を対象とした「おもしろダンスパフォーマンス&ワークショップ」等のコンテンポラリーダンスのアウトリーチ活動を検討中。

作品タイトル 「えんがちょ」 振付・ダンス:山賀ざくろ

作品メッセージ:  
女の子との愛についてはいつもついてない僕ですが、気分がルルルの日もたまにはあります。



踊りに行くぜ!! 出演は 初めて 出演会場/回数は 前橋2回/大阪2回/東京2回 計6回上演

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか？

前橋公演から数日後、自身の姿をビデオで見て、なんてカッコ悪いんだ！とガチョーン。自分のイメージとかなりかけ離れた、やたらイヤミな自分が一生懸命何かをやっているんだけど、どこかエンジン吹き過ぎで空回りしている感じで、私はそれが好きではなく、踊りに行くぜ!!は初体験だったので、本番前の重圧はものすごく、やってやるぞ！と舞台上立ってやり始めたら、お客さんの笑いがきてうれしくなってしまう一気に調子によってガンガンやり過ぎてしまったようです。本当は、5月の前橋選考会の方がずっとずっと重圧感は大きく、自分の順番の直前は立って歩くのがやっとで、踊れないんじゃないかと思ったけど、リノリウムの上に立って動き始めたらなんだかうれしくなって、とたんに身体が好き勝手に踊りだしたのです。

前橋選考会の山賀くんはカッコイイんですね、ビデオで見ると、自分としては、どちらもせっぱつまっていたけれど、どうしてこんなに違うのか、まったく別の人格のようで、とにかく、変えよう！と思ったところをスパッと変えて、大阪公演に臨みました。変えたところの練習も十分じゃなかったし、大阪入りして風邪がみで微熱があったりで、身体も頭もボーっとしている感じでしたが、かえてそれで余分な力が入らずよかったみたいです。何だか憎めんあんちゃんやなあ~というキャラクターが大阪公演のビデオでは見て取れます。

大阪のあと、東京でももっと頑張ろっ！と引き続き練習をしたつもりでしたが、前橋や大阪を観ている関係者の方々の東京での反応がイマイチでありました。大阪と東京のは大きな違いはないと思いますが、自我の表出のされ方が微妙に違うように感じます。それが動きのダイナミクスやテンションの違いとして、キャラクターの違いとして観客の印象となっているのでしょうか。自分の予期してなかったところでの問題点がわかったような気がします。そこが解消できれば4つ星以上の作品になるのかどうか、横浜でもう一度踊るチャンスがありますが、今はよくわかりません。自信もありません。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

みなさんいい人ばかりで、びっくりしてしまいました。コイツ嫌な感じのヤツだなあってというのが初対面のダンサーの中にはいるものですが、踊りに行くぜ!!ではそれがなく、みなさんダンスが好きで、自分の世界を持っている方たちばかりだったので楽屋にいても心地よかったです。みなさんの作品をじっくり観たかったのですが、ゲネで1回観られたくらいだったのが残念です。いろいろと話もしたかったのですが、本番前では精神的な余裕もなく、打上げのときも限られた人と話せただけで、みなさんともっと突っ込んだ話がしたかったです。3日間では短いですね。でも心残りがある別れるくらいがちょうどいいのかも。

松山の子たちはいいですねえ。松山という土地がそうさせているのか、たまたまおもしろい子たちが出会ったのか。東京の2日目の出番が終わって楽屋にもどってきた緑+絵美+美由紀の3人は、何かうまくいかないところがあったのか、しばらくの間微動だもせず無言でそのシーンを反芻でもしているようでした。この子たちはすごいことをやらすかも。その真摯な姿に彼女たちの未来を見た思いです。東京では観られなかった、幸ちゃんと美由紀ちゃんペアのダンスも観たかったです。松山にもスタッカートのみんなを誘って行ってみたいです。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか？

そもそも今までダンス公演をしょっちゅうやってきたわけではないので、自主公演は地元でもやるときはいつも初めての会場でやるが多かったのが、会場へ入った時の初見の緊張感や本番までの心の持ちようは、いままでのそれとあまり違いはなかったように思います。

ただ、会場を一步外へ出ると、そこで目にする街の風景や人の姿は新鮮で、“あぁ大阪に来たんだぁ”“ここは東京なんだぁ”“この街でダンスを踊るんだぁ”と感慨ひとしおでした。そんな感情が本番でのダンスにもちょっとは影響していたんだと今考えるとと思います。もっと北の街、もっと南の街でも踊ってみたいくなりました。

踊りにいくぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

仕事ということではありませんが、横浜のSTスポットでもう一度踊れるのはうれしいです。普段の練習の積み重ねも大事なことなのでしょうが、本番の舞台上で踊ることが何よりの練習だと思います。本番で踊ってわかることって、いっぱいあるってことを再認識しました。仕事でなくてももっと踊る機会を増やさなければと、今更ながら思っています。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

数多くの批評の洗礼を受けたことです。好くも悪くもこれにつきます。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

前橋の踊りに行くぜ!!には私が選ばれなくてはならない。でなければ私のダンス生命も終わりかなと、今年の春は思っていました。まさか大阪や東京でも踊れるなんて、これは予定外のことでした。その機会も与えて下さって本当に感謝しております。

ケガや病気などで本番の舞台を外さず踊ることを最小の目標にし、どの公演でも最後にお辞儀をしてお客さまの拍手をもらえたことには満足しています。でもこれからの自分のダンスの道のりが、ハイキングをするような楽な道のりではないことはよくわかるので、ため息も出ます。楽しんで儲かっちゃうダンスに関するすき間産業は何かないものか。そんなもんないですよ。

私が好きな踊り手の一人である大道芸人のギリヤーク尼ヶ崎氏は38才で路上に出て、60才を過ぎた頃に何とか自分の踊りだけでご飯が食べられるようになったそうです。それまでは今は亡くなった彼のお母さんが賄いの仕事をして家計を支えていたそうです。

私は、いくらダンスが好きだといってもギリヤークさんのような生き方はできません。できれば綺麗なお嫁さんも欲しいし、子育てもしたいです。誰でも望むような温かい家庭が築きたいです。あたりまえですが、私は天才ではありません。でもちょっと普通の人とは違うところもあるようです。

そのちょっとを中途半端にちょっとのままこれまで生きてしまったので、今精神的に辛いです。ちょっとの積み重ね具合が足りなかったと反省しても今更遅いのか、いやまだまだチャンスはあるかもしれないのか、白黒はっきりつけられず、ピミヨ～なんだよねエ～。ピンボーなオタクダンサーはどこへ行く？！

# 安川 晶子〔大阪〕

## プロフィール

大阪出身。10歳より踊りを始める。1983年から渡米を繰り返して、トレーニングを積む。リリース手法を利用し、ユニークな都市型のダンスを展開、しなやかに饒舌に語ることでできる身体をもち、圧倒的な存在を感じさせるダンサーである。

1991年より上演プロジェクトAKICK POP DANCEを開始、2002年6月に11回公演となる「3solos」を上演する。「踊りに行くぜ」への参加は2001年より二度目。

タイトル「混沌の求体」 振付・ダンス 安川晶子  
作品メッセージ:混沌の海を一人で泳ぐ……ずっと、ずっと……



**踊りに行くぜ！！ 出演は 2回目 出演会場/回数は 広島2回/富山2回 計4回上演**

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか？

不自然な部分や余分なもの(タイミングも含めた)を削る反面、ボキャ不足で伝わり切れていない部分を補ったり、必要な変化をほどこせたとします。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

様々な演出の工夫と豊かなボキャブラリーで繰り広げられてる作品をいろいろ見られたことがとても刺激になって良かったです。(今回は人そのもののインパクトの刺激が強かったです。)

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか？

先入観のない人々に見て頂けるのは気持ちが自由になれる感じがして、シビアなさすがしさを伴いつついいものですね。

踊りに行くぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

1月に広島へワークショップに行かせて頂くことになっています。あと、今回の作品を発展させたくて、2月にソロ公演をすることにしました。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

絶対的違いはそこに佐東さん&水野さんがいらして、意見を頂けることです。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

今回は照明の相川さんと2場所とも御一緒させてもらったのが有難かったです。音響も出来れば同じ方(宮田さんもGOOD!でした)が同行して頂ければいいのですが…。

あと、私、もう来年参加できないんですか？それがキツイです。

それと、集客の問題ですが、満員のお客さんとい時間を作って行けるダンサーになりたいし、そういう状況をつくっていくにはどうすればいいのか？と思います…。(広島・富山共にお客さんが少々少なかった。)

# 山田 オリエ (東京)

## プロフィール

パントマイム、バレエを学んだ後、ベリーダンスに没頭する日々を過ごす。その間、パンクロックバンド「オートモッド」のライブ活動に参加する。2000年に、STスポットで山田せつ子氏と出会い、楽しみながらもより本質へと向う作業に関心をもつ。2001年、枇杷系メンバーとなる。枇杷系主催の『ダンスの発明』にて、デュオ作品、『オリエンタルサーフィン』ソロ作品、『流型ノガラクタ・シリーズ』を発表する。

作品タイトル: 流型ノガラクタ・シリーズ  
振り付け・ダンス: 山田オリエ

## 作品メッセージ

私の好きなモノ。レコード。こんな風に割ってしまえば、もう何にも聞こえない。デモ、今日もどこかで廻っているのだ。色んな人の出来事を乗せてずっと優雅に廻る続けるのだ。



**踊りに行くぜ!! 出演は 初めて 出演会場/回数は 前橋2回/福岡1回/名古屋2回 計5回上演**

同じ作品で巡回公演をしたことで、何か作品の変化はありましたか？

今回、もともと40分の作品を20分にして臨んだ訳なのですが、その残ったシーンを踊る度にさらに自分にとって必要なことがハッキリしてくると、どんどん要らない間、何故このフォームをやるのか、その必然性があるのかどうか自分に問い掛ける事をしていく必要性が出てきて、その時間の経過の中で作品が凝縮されていったと思います。

他の出演者から何か得たこと、刺激になったことはありますか？

スタッフへの態度、話し方、接し方等、見習うべき物がありました。絶えず、相手の立場になって接する事、段取りだけではなく、作品のニュアンスを限られた時間の中で、誠実に伝える事等。

初めての土地で作品を上演したことについて、どのような感想を持ちましたか？

場所によって空気が違って、その場の空気をもっと敏感に察知できたらもっと楽しまれ方や楽しみ方が深まったと思

踊りにいくぜ!!に出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

今の所、はっきりとした物はありません。

普段公演をする際と何か違いはありましたか？

初めて会うスタッフの方々に限られた持ち時間の中でいかに作品の進行の事を伝えられるかという点で、逆に自分の作品の事を問い直す必然性があることを発見しました。

その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

最初の一箇所目の前橋の時は、一人でツアーを廻ることが、初めてだということもあってか、様子を伺って、受身になっていた所が多分にあったと思います。自分がやるべき事をやったから、大丈夫だと思っていると、自分が想像もしなかったような舞台上でのハプニングがあったりして、それをどう察知してどう伝え、どう本番をやり通す事が出来るか、ということは、冒険でもあるし、賭けのような物でもあるのかな。と思ったりしました。

二箇所目の福岡では、空間の広さに作品の内容があうのかどうか、もっと事前に緻密に検証する必要があったように思います。又、前橋の時の検証ももっと緻密しておくことも同じように大切だったと思います。ただ、1つ感激した瞬間がありました。それは、観客の人が温かく見てくれていたからに他ならないと思われませんが、ある瞬間、個人を超えて「こんなことってあるよね。」と普遍性のある言葉にならない感覚を共有させてもらったことです。この事は、本当に福岡のスタッフの方達、福岡の観客の方にお礼を言いたいです。又それと同時に自分の心の底から、観客に伝えようとする意をもつことがもっと必要だと思ったし、その為には緻密な計算も必要だということを思い知らされたような気がします。

三箇所目の名古屋では、前二箇所での反省を踏まえた上で、自分が今本当にリアリティを感じ得ているフォームだけを抽出しようと、2日とも内容を変えて臨みました。水野さんや、佐東さんが必死になって意見してくれた力もあってか、自分の伝えたい事と、実際観客に見えている、届いていく空気が、一致していく方向に近づいたと思います。でもまだまだ、自分にとっての課題は浮き彫りにされました。又、自分の現在の力量を厳しく見据えた上で、100%エネルギーを出し切ることの難しさも感じました。三箇所での公演をやらせてもらって今の自分の足りない所を痛いほど知らされた時間でした。でもこの体験を無駄にしないよう、一人でも多くの人に感動してもらえようような舞台空間を提供していく、夢の力に転花させていくよう、邁進していきたいと思っていますので、どうぞこれからも厳しく、温かく応援の程、宜しくお願い致します。。今回参加させていただいた事、本当にありがとうございました。